

肥満残存高血圧合併睡眠時無呼吸患者に対する防風通聖散及び 大柴胡湯の治療効果の比較と病態生理の解明

主任研究者 陳 和夫

京都大学大学院医学研究科呼吸管理睡眠制御学講座 特定教授

研究要旨

閉塞型睡眠時無呼吸(obstructive sleep apnea: OSA)の頻度は高く、欧米諸国ばかりでなく、本邦においても成人男子の約 20%が治療対象の OSA であるとの報告も見られるようになってきた。OSA 患者の約 70%以上は肥満患者である。また、OSA 患者の約 50%は高血圧を合併していると報告されている。本研究の目的は、治療対象となる閉塞型睡眠時無呼吸(obstructive sleep apnea: OSA)患者において、西洋医学的治療を施行した後も通常残存する肥満、高血圧に対して効用を持つ漢方薬である防風通聖散と大柴胡湯のいずれかを無作為に 6 ヶ月投与してその臨床的、病態生理的効果(減量、降圧の有無)を明らかにすることである。被験薬の薬効メカニズムの解明も本研究の目的である。

持続気道陽圧(continuous positive airway pressure:CPAP)治療 128 症例のうち 63 例が大柴胡湯群に 65 例が防風通聖散群に割り付けされた。そのうち大柴胡湯群 54 例・防風通聖散群 52 例が半年間の内服期間を終了し解析対象となった。半年間の服薬内服後において、大柴胡湯群では BMI に変化がなかった(内服前: $33.5 \pm 7.6 \text{ kg/m}^2$, 6 か月後: $33.6 \pm 7.5 \text{ kg/m}^2$, $p=0.70$)のに対し防風通聖散群では有意な減少(内服前: $33.6 \pm 5.8 \text{ kg/m}^2$, 6 か月後: $32.8 \pm 7.5 \text{ kg/m}^2$, $p<0.01$)が見られた。半年間の変化を 2 群間で比較すると、防風通聖散群の方で BMI が有意に減少していた($p=0.01$)。家庭血圧の変化については、起床時拡張期血圧で大柴胡湯群において有意な低下が見られたが、両薬剤の差について有意差は認めなかった。両群 106 症例中 83 例(大柴胡湯群 41 例 防風通聖散群 42 例)で患者の同意を得て、半年間の内服前後にて腹部 CT で内臓脂肪量の変化が評価された。内臓脂肪量は防風通聖散群で半年間の経過で有意な減少が見られ(内服前: $209.3 \pm 76.0 \text{ cm}^2$, 6 か月後: $192.0 \pm 80.4 \text{ cm}^2$, $p=0.02$)、大柴胡湯群(内服前: $193.6 \pm 102.0 \text{ cm}^2$, 6 か月

後:198.0±102.3 cm², p=0.38)と比較しても有意な差を認めた(p=0.02)。口腔内装置症例には20例が登録され19例が半年間の内服期間を終了した。防風通聖散の半年間の内服においてBMIは28.5±3.0 kg/m²から27.7±3.0 kg/m²へと有意に減少していた。(p<0.01)

また、睡眠時無呼吸症候群に特徴的な間歇的低酸素の影響を評価する細胞実験系を確立した。本邦都会の一般成人男子275名(平均年齢44±8)の検討で高血圧患者26%、糖尿病患者33%において治療対象の中等症以上の睡眠時無呼吸の存在が疑われその頻度は欧米とほぼ同等と考えられた。脂質代謝については血清中性脂肪値には睡眠呼吸障害指数が総コレステロール値には睡眠時間が有意に関連していた。循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策に睡眠呼吸障害の有無、睡眠時間の長短なども検討課題と考えられた。その他、各分担施設に於いても関連各個研究が行われた。

分担研究者

- 櫻井 滋 (岩手医科大学医学部睡眠医療学科・准教授)
- 赤柴 恒人 (日本大学医学部睡眠学・呼吸器内科分野・教授)
- 佐藤 誠 (筑波大学大学院人間総合科学研究科睡眠医学講座・教授)
- 井上 雄一 (公益財団法人神経研究所附属睡眠学センター・センター長)
- 木村 弘 (奈良県立医科大学内科学第二講座・教授)
- 巽 浩一郎 (千葉大学大学院医学研究院呼吸器内科学・教授)
- 榊原 博樹 (藤田保健衛生大学医学部呼吸器内科学・客員教授)
- 塩見 利明 (愛知医科大学医学部睡眠科・教授)
- 宮崎総一郎 (滋賀医科大学睡眠学講座・特任教授)
- 赤水 尚史 (和歌山県立医科大学内科学第一講座・教授)
- 上嶋 健治 (京都大学大学院医学研究科 EBM 研究センター・特定教授)
- 別所 和久 (京都大学大学院医学研究科感覚運動系外科学講座口腔外科学分野・教授)
- 吉田 和也 (京都医療センター歯科口腔外科・医長)
- 星野 勇馬 (京都大学医学部附属病院呼吸器内科・助教)

研究協力者

角谷 寛（京都大学大学院医学研究科ゲノム医学センター疾患ゲノム疫学
解析分野・准教授）

津田 徹（医療法人恵友会霧ヶ丘つだ病院・院長）

小賀 徹（京都大学大学院医学研究科呼吸管理睡眠制御学・特定准教授）

A. 研究目的

閉塞型睡眠時無呼吸(Obstructive sleep apnea=OSA)は高血圧、不整脈・心不全、脳血管障害発症と関連し、致命的な心血管病発症の危険因子と報告されている。また我々の研究から推測すると、治療対象となる OSA は成人男子肥満患者の 30%以上、肥満患者の 60%以上は OSA 患者である。従って OSA 治療においては、眠気の改善に代表される短期効果に留まらず、OSA 患者を心血管障害の重複リスク群として捉え、長期的な合併症治療や予防を目指す包括的なアプローチが不可欠である。

OSA そのものは持続気道陽圧(continuous positive airway pressure=CPAP)療法、口腔内装置療法により治療可能であるが、根本的治療ではなく、肥満は通常残存し降圧効果も十分でない。また CPAP 療法、口腔内装置療法はいずれも半永続的な治療継続が必要であり、CPAP 療法脱落例は 30%以上とされる。また、肥満を合併した OSA において、減量は根治療法になりうるが、食事指導のみで 10%以上の減量を得られるのは全肥満患者の約 3%に限られる。従って、血管イベント予防の観点に立った合併症に対する追加療

法、あるいは治療継続困難例における代替療法の開発が急務である。

防風通聖散と大柴胡湯は和漢薬であり、それぞれ肥満および高血圧症に対する効果が報告され社会医療保険適応も認められている。OSA 患者においても CPAP 療法および口腔内装置療法に併用することで、肥満および高血圧症に対する相加効果、あるいは代替効果が期待される。この二薬は市販薬として販売され、市販薬での併用を希望する OSA 患者も見られるが信頼できるエビデンスに乏しく、有効性及び安全性に関して十分な検証が求められている。

本研究は CPAP 療法・口腔内装置療法によって治療中の OSA 患者を対象に、防風通聖散と大柴胡湯の追加投与の効果を検討する多施設共同研究である。近年、和漢薬の分野でも evidence-based medicine の潮流に対応し、従来の陰陽五行説を超えるエビデンスの蓄積が強く望まれている。本研究は OSA に対する新たな追加療法ないしは代替療法の開発を目標とするのみならず、和漢薬における多施設共同研究、エビデンス作成の一環としても有意義な研究である。また、患者検体を用いた細胞実験を併せて行うことで、和漢薬の効果の科学的な裏付

けを得ることが可能である。

肥満かつ高血圧症を合併し、かつ CPAP 療法で継続加療中の OSA 患者を対象に、防風通聖散と大柴胡湯のいずれかを無作為に 6 ヶ月間投与して、その臨床的、病態生理的効果を明らかにする。主要評価項目を投与前後の体重の変化として両薬剤の優劣を判定する。また、副次的項目は 1) 血圧 2) 内臓脂肪量 3) グレリンなどの食欲・肥満関連因子、4) 基礎代謝量、血管内皮機能、5) 健康関連 QOL とする。また、減量効果が著しく、従来の治療の中止を希望する患者では、薬剤投与前後で睡眠時ポリソムノグラフィー (Polysomnography = PSG) 検査を施行し、治療中止の可否を判定する。肥満かつ高血圧症を合併し、かつ口腔内装置療法で継続加療中の OSA 患者では、防風通聖散を 6 ヶ月間投与して、投与前後で上記項目について同様に評価する。

また、臨床研究の結果を理解する上で必要な病態生理的データを得るために患者末梢血から単核球を分離して OSA 類似の低酸素曝露を行い、防風通聖散または大柴胡湯による前処置の有無で細胞の反応を比較する。転写因子(NF- κ B、HIF-1)、酸化ストレス物質チオレドキシンを測定して、薬剤効用のメカニズムの解析を行う。OSA 患者では CPAP 導入後もチオレドキシンの酸化ストレスマーカーは依然、正常人に比し高値であることが知られており、薬剤投与によりストレスマーカーが変化すればストレスマーカーを介した薬剤効用の可能性が考えられ、病態生理の解明の一助になると考えられる。

あわせて、主任および各分担研究施設において、本研究課題に関連して各個研究も行っている。

B. 研究方法

研究の主な内容は臨床的研究とその結果に起因する病態生理を解明するための細胞実験である。

1) 臨床的研究

1. Randomized control trail(RCT)法による多施設共同臨床介入研究
(口腔内装置使用患者に関しては前向き介入観察研究)

本研究は既承認薬を社会保険適応内で投与するため、盲検法は用いない。

2. 研究期間

対象者登録期間

- 承認日より目標症例数が達成されるまで(最大3年)とする。

対象者追跡期間

- 対象者のうち、CPAP 療法を行っているものを防風通聖散と大柴胡湯の2群に無作為で割り付け、6ヶ月間の投与を行ったのち、再度検査を行う。口腔内装置療法を行っている対象者には防風通聖散の6ヶ月間の投与を行い、再度検査を行ってその効果を検討する。なお、CPAP 療法を導入した患者は毎月来院する必要があり、その際に併せて投与前後の検査や薬剤投与を行う。

3. 対象者の選択

選択基準

- ✚ 京都大学病院もしくは共同研究施設において、PSG によって治療対象の OSA と診断され、既に 6 ヶ月間以上の CPAP 療法もしくは口腔内装置療法を継続されているにもかかわらず、肥満、血圧に大きな変動がなく、既存療法を行いつつも肥満かつ高血圧症を合併している症例のうち、本研究への参加を同意したものを対象とする。京都大学病院および国立病院機構京都医療センターを除く共同研究施設では CPAP 療法中の患者のみを対象とし、国立病院機構京都医療センターでは口腔内装置療法中の患者のみを対象とする。
- ✚ 年齢は 20 歳以上、性別は不問とする。
- ✚ 肥満の診断基準は Body mass index(BMI) $25\text{kg}/\text{m}^2$ とする。
- ✚ 高血圧症の診断は外来受診時に安静時血圧を測定し、2 回以上の受診において収縮期血圧 130mmHg または拡張期血圧 80mmHg を認めることとする。降圧薬服用中の患者では、通常どおりの投薬下で測定を行う。
- ✚ いずれの場合も主治医の判断において、適切な栄養療法および運動療法が行われている症例を対象とする。

OSA の診断基準

OSA の診断基準は、1)眠気などの自覚症状を有し、かつ無呼吸の半数以上が閉塞型で睡眠 1 時間当たりの無呼吸低呼吸指数(Apnea and hypopnea index=AHI)

5、2)症状の有無に関係なく AHI 15 のいずれかを満たすこととする。CPAP 療法の適応は AHI 20、口腔内装具療法の適応は自覚症状を有し AHI 5 とし、いずれも患者の同意のもと社会保険適応の適応範囲内で行う。

除外基準

- ✚ 急性感染症や悪性腫瘍に対し治療中の患者。
- ✚ 試験開始前 6 ヶ月以内に脳血管障害（一過性脳虚血発作を含む）、心筋梗塞を発症した患者
- ✚ 試験開始前 6 ヶ月以内に冠血行再建術が実施された患者、あるいは今後同処置が予定されている患者
- ✚ 試験開始前 6 ヶ月以内に狭心症あるいは心不全による入院歴のある患者
- ✚ 重度の心不全（NYHA 心機能分類、Class 以上）である患者、あるいは重篤な不整脈を合併している患者
- ✚ 収縮期血圧 160mmHg または拡張期血圧 100mmHg を認める患者：他の降圧薬の追加投与などの治療を優先し、コントロール改善後にも上記の選択規準を満たす場合は、登録可能とする。
- ✚ 防風通聖散または大柴胡湯に過敏症の既往のある患者。

- 他の漢方剤内服中の患者
- 重篤な肝・腎疾患を有する患者(透析施行中の患者)。
- 肝炎に対しインターフェロン治療中の患者。
- 胸部単純レントゲン写真で間質性肺炎を認めた患者。
- 妊婦または妊娠している可能性のある患者および授乳中の患者。
- その他、主任研究者が不相当と考える症例。

目標症例数およびその算定根拠

- CPAP 使用症例では薬剤投与による6ヶ月間の体重減少の2剤での効果差を3kgと設定し、標準偏差各5.0、 α エラー0.05、パワー0.8と仮定すると、必要な最小症例数は各群45例で両群併せて90例と算定される。服薬コンプライアンス不良による脱落例が出ることを予想して防風通聖散群、大柴胡湯群を各55症例ずつ、併せて110症例を目標症例数とした。防風通聖散には、6ヶ月間で3~4kgの体重減少の効果ありとするエビデンスが存在するため、防風通聖散をコントロール群と考え大柴胡湯の体重減少効果を比較する。

- 目標症例数の振り分けとして、京都大学では年間に各群10例ずつの計20例、2年間で計40例を予定とする。岩手医科大学、筑波大学、千葉大学、日本大学、財団法人神経研究所、愛知医科大学、藤田保健衛生大

学、奈良県立医科大学、滋賀医科大学ではそれぞれ年間各群4例ずつ、両群で8例の予定とし、2年間で72例を予定とし、合計112例とする。

- 京都大学口腔外科、国立病院機構京都医療センターにおける口腔内装置例は年間各10例、2年間で40例を目標とする。

4. 介入方法

介入対象

- 京都大学附属病院および共同研究施設を受診中の通常のポリソムノグラフィーにて診断されたOSAの患者のなかから、上記の選択基準、除外基準により対象症例を選択する。

介入内容

- 上記介入対象患者を京都大学 EBM 研究センターで無作為に防風通聖散群と大柴胡湯群に割り付ける。口腔内装置具使用患者は、全例を防風通聖散群とする。両薬剤の成分を図1に示す。

図1. 大柴胡湯および防風通聖散の成分表

大柴胡湯 (ツムラ大柴胡湯エキス顆粒) 7.5g中下記の割合で配合生薬の 乾燥エキス4.9gを含有している。	防風通聖散 (ツムラ大柴胡湯エキス顆粒) 7.5g中下記の割合で配合生薬の 乾燥エキス4.9gを含有している。
柴胡 / サイコ (bupleuri radix) 6.0g 半夏 / ハンゲ (pinelliae tuber) 4.0g 黄芩 / オウゴン (scutellariae radix) 3.0g 芍薬 / シャクヤク (paeoniae radix) 3.0g 大棗 / タイソウ (zizyphi fructus) 3.0g 枳実 / キジツ (aurantii fructus immaturus) 2.0g 生姜 / ショウキョウ (zingiberis rhizoma) 1.0g 大腹 / ダイオウ (rhei rhizoma) 1.0g	黄芩 / オウゴン (scutellariae radix) 2.0g 甘草 / カンソウ (glycyrrhizae radix) 2.0g 栝楼 / キキョウ (platycodon radix) 2.0g 石膏 / セッコウ (gypsum fibrosum) 2.0g 白朮 / ヒヤクシュツ (atractylodis rhizoma) 2.0g 大腹 / ダイオウ (rhei rhizoma) 1.5g 荆芥 / ケイガイ (schizonepetae spica) 1.2g 山梔子 / サンシシ (gardeniae fructus) 1.2g 芍薬 / シャクヤク (paeoniae radix) 1.2g 川芎 / センキュウ (cnidium rhizoma) 1.2g 当帰 / トウキ (angelicae radix) 1.2g 薄荷 / ハッカ (menthae herba) 1.2g 防風 / ボウフウ (sposhnikoviae radix) 1.2g 麻黄 / マオウ (ephedrae herba) 1.2g 連翹 / レンキョウ (forsythiae fructus) 1.2g 生姜 / ショウキョウ (zingiberis rhizoma) 1.0g 煅石 / カッセキ (talcum) 3.0g 芒硝 / ボウショウ (sodium sulfate) 0.7g

両剤ともに3包分3 各食間での内服としている

- ✚ 外来で投与開始前に後述の項目を測定する。割り付けに従い、6ヶ月間の薬剤投与を行う。投与中1,3,6ヶ月の外来受診時に血液検査を行い、副作用の早期発見に努める。
- ✚ 6ヶ月間の投与期間終了後に投与前と同様の項目を測定する。
- ✚ 下記の中止基準を満たした場合および投与期間終了後は、薬剤投与を中止する。患者が投与継続を希望した場合、主治医の判断で投薬を継続することは可能である。中止例では原則として、開始6ヶ月後の各種測定は行わない。

中止基準

- ✚ 従来のCPAP療法、口腔内装具療法、栄養療法、運動療法のいずれかが継続困難となった場合。従来の治療の大幅な変更を要した場合(例えば口腔内装具の再作成など)も含む。
- ✚ 降圧薬(ニトロ系製剤を含む)、糖尿病治療薬、抗脂血症治療薬の追加変更を要した場合。
- ✚ 防風通聖散または大柴胡湯投与による重篤な副作用を生じ、投与継続が困難になった場合。
- ✚ 他疾患を発症し、投与継続が困難になった場合。また除外基準に記載した併用禁止薬を開始した場合。
- ✚ 患者が同意を撤回した場合。

介入回数

- ✚ 検査目的の介入は投与開始前、投与中(1,3ヶ月)および6ヶ月間の投与終了後の受診時で合わせて4回で

ある。治療介入は6ヶ月間連日の内服を要する。

5. 観察・検査項目

全施設で施行するもの

ア) 投与開始前の観察・検査項目

i)患者背景

- ✚ 年齢、性別、身長、体重、BMI、血圧、脈拍、呼吸数、腹囲、頸部周囲径
- ✚ 既往歴(内分泌異常、慢性疾患、悪性腫瘍の治療中など)、喫煙歴、内服治療の有無と内容

ii)睡眠アンケート

(資料1：漢方アンケート)

- ✚ Japan-Epworth Sleepiness Scale(J-ESS) 眠気の評価
- ✚ Medical Outcomes Study 36-Item Short Form Health Survey (SF-36) 健康状態の評価
- ✚ Calgary Sleep Apnea Quality of Life Index (SAQLI) 疾患特異的な健康状態の評価
- ✚ Pittsburgh Sleep Quality Index (PSQI) 睡眠の質の評価
- ✚ Hospital Anxiety and Depression Scale (HADS) 不安抑うつの評価
- ✚ Physical Activity 日常生活の活動性

睡眠アンケートは1つの冊子にまとめられており39問から構成されている。高齢の患者・視力障害などがありアンケート施行が困難な患者に関しては施行しないこととする。

iii) Polysomnography (PSG)

PSG は診断時には必ず行うが、一定以上の体重の減少がみられた場合患者希望があれば、睡眠時無呼吸の改善度把握のため PSG を行う。

iv) 腹部単純 CT

✚ 肥満(BMI $25\text{kg}/\text{m}^2$)患者における脂肪肝の評価目的として、保険診療の範囲内で腹部単純 CT を施行する。この画像を使用して内臓脂肪量を評価する。また、肝臓及び脾臓での CT 濃度より脂肪肝の程度を評価する。

✚ 原則として 30 歳以上の男性または 50 歳以上の女性に限るが、男性 20 歳以上、女性 40 歳以上で脂肪肝以外にもメタボリックシンドロームの存在が疑われ、本人希望がある場合には施行を考慮する。

✚ なお上記対象患者でも本人検査希望のない場合は施行しない。

v) 血液検査

✚ 外来受診の際に空腹時採血を行う。

✚ 血球数、高感度 CRP、糖脂質代謝マーカー(血糖、HbA1c、総コレステロール、HDL、LDL、中性脂肪など)、生化学検査(腎機能、肝機能、電解質など)。

vi) 心電図・呼吸機能検査

vii) 胸部単純レントゲン写真

イ) 投与 1 ヶ月後の外来受診時の観察・検査項目

i) 患者背景：身長、体重、BMI、血圧、脈拍

ii) 血液検査

✚ 外来受診の際に副作用確認目的の採血を行う。

✚ 血球数、生化学検査(腎機能、肝機能、電解質、CRP など)。

ウ) 投与 3 ヶ月後の外来受診時の観察・検査項目

i) 患者背景

身長、体重、BMI、血圧、脈拍

ii) 血液検査

投与 1 ヶ月後と同様の採血項目を施行する。

エ) 投与 6 ヶ月後の外来受診時の観察・検査項目

i) 患者背景

身長、体重、BMI、血圧、脈拍、呼吸数、腹囲、頸部周囲径

ii) 睡眠アンケート

iii) 腹部単純 CT

iv) 血液検査

投与開始前と同様の採血項目を施行する。

v) 胸部単純レントゲン写真

京都大学でのみ施行するもの：投与開始前・後の観察・検査項目

ア) 投与開始前の検査項目

i) セファログラム

頭頸部の単純レントゲン写真。OSA 患者の通常診療で汎用。

ii) 血管内皮機能検査(End-PAT)

空腹時に施行。

iii) 安静時代謝量測定(MedGem)

患者の呼気を用いて測定。

iv) 特殊な血清中の炎症マーカー(IL-6、

IL-8、TNF α など)

イ) 投与開始 6 ヶ月後の外来受診時の観察・検査項目

i)血管内皮機能検査(End-PAT)

ii)安静時代謝量測定(MedGem)

6. 解析の概要

主要評価項目を体重の変化とする。副次評価項目として 1)血圧 2)内臓脂肪量 3)グレリンなどの食欲・肥満関連因子、4)基礎代謝量、血管内皮機能、5)健康関連 QOL とする。

上記評価項目に関して、薬剤投与前後の変化を検討する。併せて防風通聖散群と大柴胡湯群の両群での効果差を検証する。

7. 個人情報の保護

データの管理は全て京都大学 EBM センターの協力指導の下、呼吸管理睡眠制御学講座にて行う。個人情報の保護に関する法律(平成 15 年法律第 57 号)の規定により、個人のデータの安全管理のための必要かつ適切な措置、個人情報の取扱いに関する苦情の処理その他の個人情報の適正な取扱いを確保するために必要な措置を講じ、当該措置の内容を公表するように努める。具体的には、各施設において各患者番号を新たに付しデータを匿名化し、それらを統合する場合にも連結不可能匿名化を講じ統合解析を行う、解析終了後データは適切に廃棄する。

8. 対象者への説明・同意と倫理面への配慮

本検討は「ヘルシンキ宣言」と「臨床研究に関する倫理指針の施行等について」にもとづき実施する。

担当医師もしくは臨床担当者が検査に先立ち対象者本人に説明し、文書により自由意思による同意を得るものとする(資料 2)。また、その同意に関する記録を 1 通残すものとする。

2) 臨床研究データの解釈を補助する京都大学でのみで施行する細胞実験

同意の得られた一部患者において、投与前の末梢血 20ml を採取し、そこから単核球を分離し、当講座の所有する低酸素曝露装置を用いて OSA に類似した間欠的低酸素条件に曝露する。防風通聖散または大柴胡湯による前処置の有無で、細胞の反応を比較する。転写因子(NF- κ B、HIF-1)、酸化ストレス物質チオレドキシンを測定して、薬剤効用のメカニズムの解析を行う。

C. 研究結果

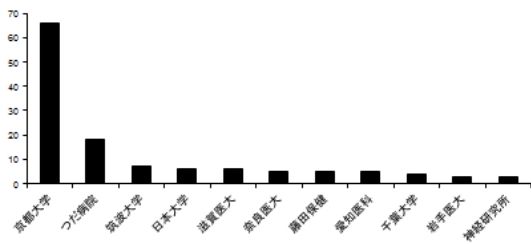
I. 漢方投与による共同臨床研究

本研究は 2010 年 8 月に UMIN 臨床試験登録システムに登録され(UMIN 臨床試験登録番号 UMIN000003981) 同年 9 月に京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院 医の倫理委員会により承認され、開始された。各分担研究施設においても該当する倫理委員会の承認を経て開始された。2012 年 5 月末を以て新規症例の登録を終了し、CPAP 症例 128 例・口腔内装

置症例 20 例が登録された。施設別の登録症例数を図 2 に示す。

図2. 施設別症例集積状況 (CPAP症例)

128症例登録(防風通聖散 65例 大柴胡湯 63例)



1. CPAP 症例での結果

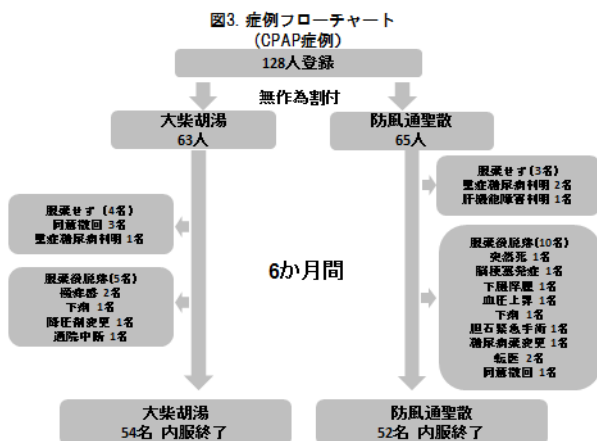
CPAP128 症例のうち 63 例が大柴胡湯群に 65 例が防風通聖散群に割り付けされた。そのうち大柴胡湯群 54 例・防風通聖散群 52 例が半年間の内服期間を終了し解析対象となった。症例のフローチャートを図 3 に示す。大柴胡湯群・防風通聖散群の 2 群において内服開始前の BMI や血圧などに有意な差は見られなかった。解析対象となった症例の臨床背景を表 1 に示す。

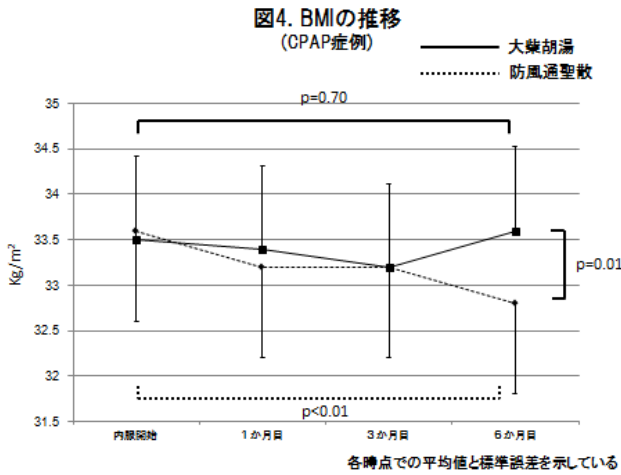
表 1. CPAP 症例の臨床背景

	大柴胡湯 (n=54)	防風通聖散 (n=52)	p
性別 (M/F)	48/6	45/7	0.78
年齢 (yr)	55.5 ± 11.7	53.7 ± 10.7	0.41
降圧剤服用あり n(%)	44 (81.5)	36 (69.2)	0.18
血糖降下薬服用あり n(%)	7 (13.0)	7 (13.5)	1.00
高脂血症薬服用あり n(%)	16 (29.6)	15 (28.9)	1.00
喫煙 (never/ex/current) ,n	5/28/21	11/19/22	0.14
CPAP 開始からの期間 (m)	49.1±36.0	50.2±30.9	0.87
OSA 診断時の AHI /hr	51.0±23.7	57.0±23.6	0.26
身長 (m)	1.66±0.08	1.68±0.08	0.25
体重 (kg)	93.4±21.7	95.2±18.3	0.64
BMI (kg/m ²)	33.5±7.6	33.6±5.8	0.96
腹部周囲径 (cm)	107.3±14.1	108.0±11.9	0.78
家庭早期収縮期血圧 (mmHg)	139.1±13.0	140.4±12.6	0.61
家庭早期拡張期血圧 (mmHg)	83.8±9.9	85.9±10.1	0.30
家庭就寝前収縮期血圧 (mmHg)	134.3±11.4	137.5±13.3	0.18
家庭就寝前拡張期血圧 (mmHg)	76.3±8.9	79.8±15.3	0.15

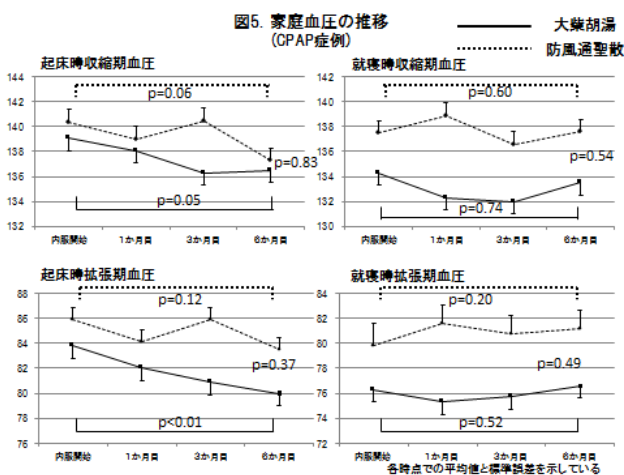
CPAP: Continuous positive airway pressure(持続陽圧気道療法)
OSA: Obstructive Sleep Apnea (閉塞性睡眠時無呼吸)
BMI: Body Mass Index(肥満度指数)

半年間の服薬内服後において、大柴胡湯群では BMI に変化がなかった(内服前:33.5±7.6kg/m², 6 か月後: 33.6±7.5 kg/m², p=0.70)のに対し防風通聖散群では有意な減少(内服前:33.6±5.8kg/m², 6 か月後: 32.8±7.5 kg/m², p<0.01)が見られた。半年間の変化を 2 群間で比較すると、防風通聖散群の方で BMI が有意に減少していた。(p=0.01)半年間の BMI の推移を図 4 に示す。



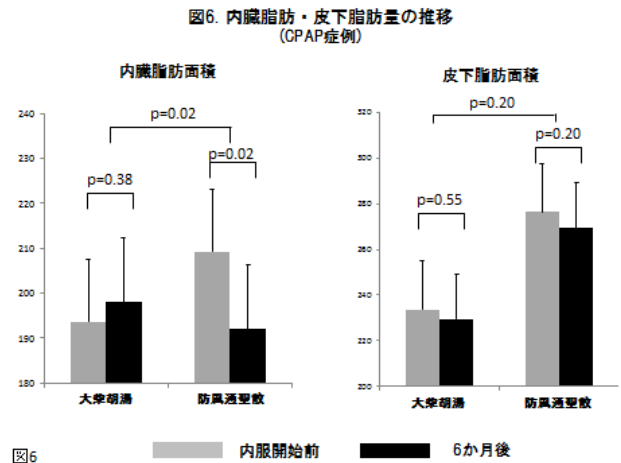


家庭血圧の変化については、起床時拡張期血圧で大柴胡湯群において有意な低下が見られた。(内服前:85.9±9.9mmHg, 6か月後:83.5±10.4mmHg, $p<0.01$) 両群における起床時収縮期・拡張期血圧および防風通聖散群における起床時収縮時血圧では、両群で低下する傾向が見られたが統計学的な有意差には達しなかった。両薬剤の差について有意差は認めなかった。(図5)



両群 106 症例中 83 例(大柴胡湯群 41 例 防風通聖散群 42 例)で患者の同意を得て、半年間の内服前後にて腹部 CT で内臓脂肪量の変化が評価された。腹部 CT を撮影された症例群と撮影されなかった症例群の間では、性別・年齢・BMI・血圧などの臨床

背景に有意差は認められなかった。内臓脂肪量は防風通聖散群で半年間の経過で有意な減少が見られ(内服前:209.3±76.0 cm², 6か月後:192.0±80.4 cm², $p=0.02$)、大柴胡湯群(内服前:193.6±102.0 cm², 6か月後:198.0±102.3 cm², $p=0.38$)と比較しても有意な差を認めた($p=0.02$)。皮下脂肪量については両群において有意な変化は見られなかった。(図6)



京都大学医学部附属病院にて登録された症例 67 例のうち 49 症例(大柴胡湯群 26 例, 防風通聖散群 23 例)にて指尖脈波を用いた内皮依存性血管拡張反応測定(Endo-PAT)検査を行った。本検査は血管内皮機能を測定するものであり、両方の示指に装着したプローブで指尖脈波を持続的に計測し、5 分間の駆血前 2 分半と解放後 1 分間の脈波の平均の比をコントロール腕の脈波変化で補正して Reactive Hyperemia Index(RHI: 反応性充血指数)を算出する。内皮依存性血管拡張反応が強いほど RHI は高い値をとるとされている。検査概要を図7に示す。半年間の内服前後において、血管内皮機能を表す RHI 値は両群ともに

有意な変化を認めなかった。(図 8)

図7. 指尖脈波を用いた内皮依存性血管拡張反応測定 (Endo-PAT)

- 両方の示指に装着したプローブで指尖脈波を持続的に計測し、5分間の駆血前・2分半と解放後1分間の脈波の平均の比をコントロール腕の脈波変化で補正してReactive Hyperemia Index (RHI: 反応性充血指数)を算出する。内皮依存性血管拡張反応が強いほどRHIは高い値をとる。

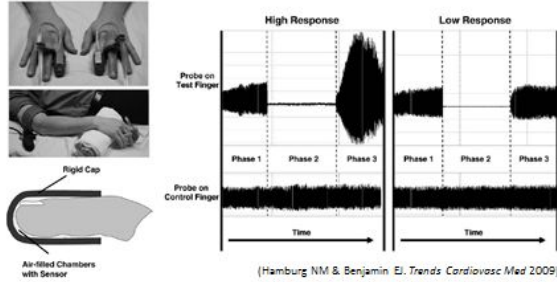
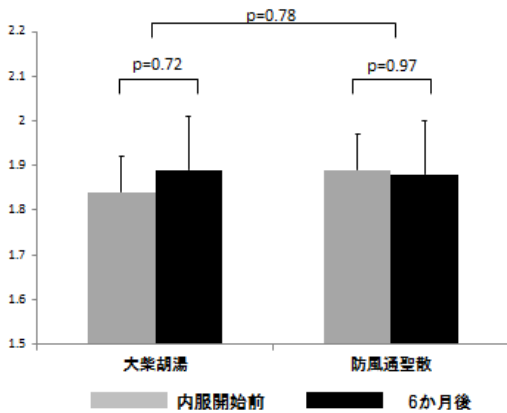


図8. End-PAT検査におけるRHIの変化



2. 口腔内装置症例での結果

口腔内装置症例には 20 例が登録され 19 例が半年間の内服期間を終了した。症例登録は全例京都医療センターにて行われた。1 例では内服開始後に本人の希望により内服継続中止となり脱落症例となった。内服を終了した 19 症例の臨床背景を表 2 に示す。防風通聖散の半年間の内服において BMI は $28.5 \pm 3.0 \text{ kg/m}^2$ から $27.7 \pm 3.0 \text{ kg/m}^2$ へと有意に減少していた。(p<0.01)(図 9) 家庭血圧においては起床時の収縮期・拡張期共に低下する傾向が見られたが、統計学的な有意差を示すには至らなかった。(図 10)

表 2. 口腔内装置症例の臨床背景

防風通聖散内服	
(n=19)	
性別 (M/F)	18/1
年齢 (yr)	61.1 ± 13.2
降圧剤服用あり n(%)	11(57.9)
血糖降下薬服用あり n(%)	2 (10.5)
高脂血症薬服用あり n(%)	9 (47.4)
喫煙 (never/ex/current) ,n	5/14/0
CPAP 開始からの期間 (m)	14.8±12.0
OSA 診断時の AHI /hr	29.1±13.2
身長 (m)	1.68±0.08
体重 (kg)	95.2±18.3
BMI (kg/m ²)	28.5±3.0
腹部周囲径 (cm)	100.3±7.8
家庭早期収縮期血圧 (mmHg)	146.1±13.6
家庭早期拡張期血圧 (mmHg)	86.7±12.0
家庭就寝前収縮期血圧 (mmHg)	141.5±15.2
家庭就寝前拡張期血圧 (mmHg)	81.1±13.8

CPAP: Continuous positive airway pressure(持続陽圧気道療法)
OSA: Obstructive Sleep Apnea (閉塞性睡眠時無呼吸)
BMI: Body Mass Index(肥満度指数)

図9. BMIの推移
(口腔内装置症例: 防風通聖散内服)

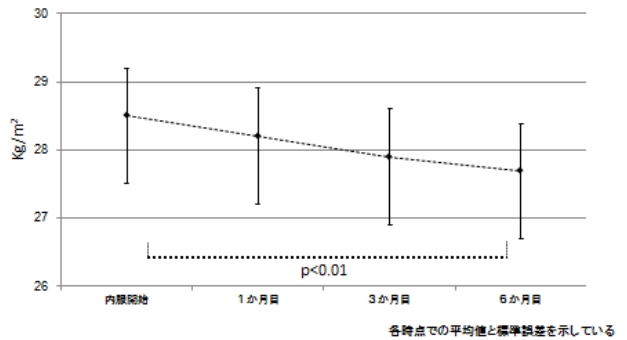
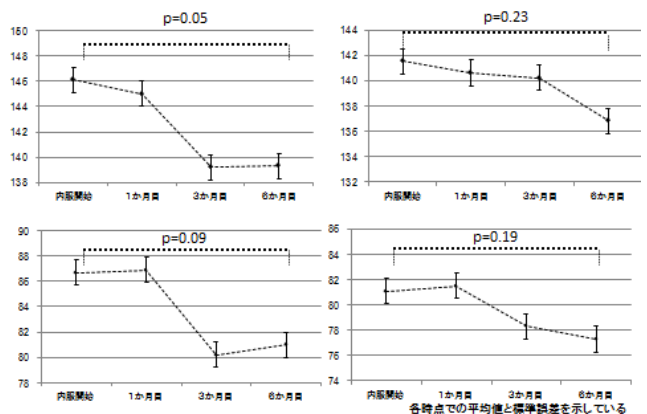


図10. 家庭血圧の推移
(口腔内装置症例: 防風通聖散内服)



II. 病態生理解明のための基礎研究

睡眠時無呼吸症候群に特徴的な間歇的低酸素の影響を評価する細胞実験系を確立した。実験系の不安定性が問題だった液相法と異なり、気相法を採用することで安定した暴露実験が可能となった。

III. その他の研究成果

本邦都会の一般成人男子 275 名(平均年齢 44±8)の脂質代謝の検討で、血清中性脂肪値には睡眠呼吸障害指数が総コレステロール値には睡眠時間が有意に関連していた。同コホート高血圧患者 26%、糖尿病患者 33%において治療対象の中等症以上の睡眠時無呼吸の存在が疑われその頻度は欧米とほぼ同等と考えられ、循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策に睡眠呼吸障害の有無が検討課題と考えられた。その他、各分担施設に於いても関連各個研究が行われた。

IV. 市民啓発ツールの作成

来年度から始まる健康日本 21 (第二次) 推進の一環として、自治体における生活習慣病対策の取組を支援するため、本研究課題の一部の研究成果として医療者向けの市民啓発ツールを作成して厚生労働省に提出した(資料 3)。

D. 考察

CPAP 症例では防風通聖散を内服した群において、半年間で有意に BMI および内臓脂肪量が減少しており、大柴胡湯を内服した群と比較してもその効果には有意な差が認められた。家庭血圧に関しては、両薬剤ともに起床時の収縮期・拡張期血圧を低下

させる傾向を認めたが統計学的な有意差を示すには至らなかった。血圧における両薬剤の効果の差は認められなかった。

大柴胡湯群 3 例・防風通聖散群 3 例において副作用とみられる症状が出現し、投薬中止となった。防風通聖散群では突然死 1 例・脳梗塞発症 1 例が発生したが同剤との因果関係は不明である。両薬剤の副作用の頻度等については、未だ詳細な報告はなく今後も検証が必要であると考えられる。

防風通聖散に含まれる麻黄はエフェドリンを多く含み、また同剤に含まれる甘草、荊芥、連翹には強力なホスフォジエステラーゼ阻害作用があると報告されており、前者は交感神経終末からノルアドレナリン放出を増強し褐色脂肪細胞のアドレナリン受容体を活性化し、後者はノルアドレナリンの効果を持続させる働きがあるため全身代謝が亢進し、肥満を軽減させる効果があるとされている。一方、大柴胡湯に含まれる黄芩はフリーラジカルを産む脂質過酸化反応を阻止し、半夏は脂質の小腸での吸収を抑え中性脂肪の合成を阻止し高脂血症、ひいては動脈硬化病変の形成を抑える薬理作用が動物実験において報告されており、また多くフラボノイドが含み全身の酸化ストレスを軽減すると報告されていることから抗肥満作用や降圧作用をもたらす可能性はあるとされてきた。

しかし、これらの効能を実際の臨床において検証した報告は極めて少なく、本研究の結果は和漢薬の効能を実証した貴重なエビデンスとなると考える。今後は、両薬剤のメタボリックシンドロームの他の構成要

素であるインスリン抵抗性や高脂血症に対する効果の検証、また OSA を合併していない肥満患者にても同様の効果が期待できるか否かの検証が必要であると考えられる。

また、来年度から始まる健康日本 21 (第二次) の食生活、運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善に関する目標中の「休養」の中に「睡眠による休養を十分とれていない者の減少」が指標として掲げられている。睡眠呼吸障害患者もまさに「睡眠による休養を十分とれていない者」とも考えられるので、睡眠呼吸障害患者への適切な治療、指導介入も継続的に必要と考えられた。

E. 結論

OSA 治療中の高血圧・肥満が残存する患者において、防風通聖散は半年間の内服において有意な減量効果をもたらした。睡眠呼吸障害の患者の治療管理は健康日本 21 (第二次) の指標の一つ、健康日本 21 (第二次) の指標の一つ「睡眠による休養を十分とれていない者の減少」の指標の実現のためにも重要である。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

1. 論文発表

巻末「平成 22 ~ 24 年度研究成果の刊行に関する一覧表」に記載。

2. 学会発表

陳和夫

- 1) Chin K, Chihara Y, Aritake K, Harada Y, Azuma M, Toyama Y, Murase K, Aihara K, Tanizawa K, Handa T, Yoshimura C, Hitomi T, Oga T, Mishima M, Hayaishi O, Urade Y. A Possible Specific Urine Biomarker For Severe Obstructive Sleep Apnea And Cardiovascular Diseases-Lipocalin-Type Prostaglandin D Synthase (L-PGDS). American Thoracic Society International Conference, San Francisco, USA, 2012.5.20.
- 2) Toyama Y, Kadotani H, Takegami M, Nakayama-Ashida Y, Minami I, Horita S, Oka Y, Oga T, Wakamura T, Fukuhara S, Mishima M, Chin K. Effects Of Sleep Duration And Obstructive Sleep Apnea On Serum Lipid Profile Of Working-age Males In Japan. American Thoracic Society International Conference, San Francisco, USA, 2012.5.20.
- 3) Aihara K, Handa T, Nagai S, Tanizawa K, Ikezoe K, Chihara Y, Harada Y, Yoshimura C, Oga T, Uno K, Chin K, Mishima M. Impaired endothelial function in patients with pulmonary fibrosis. American Thoracic Society International Conference, San Francisco, USA, 2012.5.22.

- 4) Chin K, Harada Y, Oga T, Azuma M, Murase K, Toyama Y, Aihara K, Tanizawa K, Chihara Y, Yoshimura C, Hitomi T, Handa T, Mishima M. Visceral Fat Accumulation in Subjects with Non-to-moderate and Severe Obstructive Sleep Apnea. American Thoracic Society International Conference, San Francisco, USA, 2012.5.23.
- 5) Tanizawa K, Handa T, Nakashima R, Kubo T, Hosono Y, Aihara K, Ikezoe K, Taguchi Y, Hatta K, Oga T, Chin K, Nagai S, Mimori T, Mishima M. Prognostic values of radiological patterns and disease extent on high-resolution computed tomography in myositis-associated interstitial lung disease. American Thoracic Society International Conference, San Francisco, USA, 2012.5.23.
- 6) Chihara Y, Imabayashi T, Date K, Koyama Y, Tamiya N, Takemura Y, Ueda M, Arimoto T, Iwasaki Y. Case Report: Fluoroscopy-Guided Barium Marking For Localizing Small Pulmonary Lesions Before Video-Assisted Thoracic Surgery. American Thoracic Society International Conference, San Francisco, USA, 2012.5.23.
- 7) 陳和夫: 睡眠時無呼吸の病態と治療効果 日本内科学会第 46 回近畿支部生涯教育講演会 大阪市 2012.6.17.
- 8) 陳和夫: 呼吸イベント判定と臨床医学の実際 シンポジウム 1 日本睡眠学会 第 37 回定期学術集会 横浜市 2012.6.28.
- 9) 小賀徹, 相原顕作, 茆原雄一, 原田有香, 吉村力, 人見健文, 三嶋理晃, 陳和夫: 閉塞型睡眠時無呼吸における全身性炎症と気道炎症の検討 一般演題 5 睡眠呼吸障害 日本睡眠学会第 37 回定期学術集会 横浜市 2012. 6. 28
- 10) 村瀬公彦, 赤柴恒人, 巽浩一郎, 井上雄一, 佐藤誠, 櫻井滋, 榊原博樹, 塩見利明, 木村弘, 宮崎総一郎, 津田徹, 別所和久, 吉田和也, 外山善朗, 陳和夫: 肥満残存高血圧合併睡眠時無呼吸患者に対する防風通聖散及び大柴胡湯の治療効果の比較と病態生理の解明 日本睡眠学会第 37 回定期学術集会 横浜市 2012. 6. 28.
- 11) 上田和幸, 原田有香, 小賀徹, 人見健文, 吉村力, 山西裕子, 薄田奈津子, 松浦伸子, 陳和夫: パルスオキシメーターとアクチングラムの併用によって求めた RDI と AHI の関係 日本睡眠学会第 37 回定期学術集会 横浜市 2012. 6. 28.
- 12) Harada Y, Oga T, Murase K, Toyama Y, Aihara K, Chihara Y, Yoshimura C, Hitomi T, Handa T, Tsuboi T, Mishima M, Chin K. Visceral fat in non-to-moderate and severe obstructive sleep apnoea. European Respiratory Society Annual Congress, Vienna, Austria, 2012.9.4.
- 13) Chihara Y, Tsuboi T, Hitomi T, Azuma

- M, Murase K, Toyama Y, Harada Y, Aihara K, Tanizawa K, Handa T, Yoshimura C, Oga T, Yamamoto K, Mishima M, Chin K. Flexible positive airway pressure improves treatment adherence compared with auto-adjusting PAP. European Respiratory Society Annual Congress, Vienna, Austria, 2012.9.4.
- 14) 陳和夫：肥満症と睡眠時無呼吸 第33回日本肥満学会 教育講演 京都市 2012.10.12.
- 15) Chin K. Associations between lifestyle-related diseases, sleep apnea and sleep duration. The 8th International Symposium on Respiratory Diseases & ATS in China Forum 2012, Shanghai, China, 2012.11.8.
- 16) Chin K, Murase K, Toyama Y, Harada Y, Akashiba T, Tatsumi K, Inoue Y, Satoh M, Sakurai S, Sakakibara H, Shiomi T, Kimura H, Miyazaki S, Tsuda T, Bessho K, Yoshida K, Ueshima K, Akamizu T, Kadotani H, Hoshino Y, Oga T. The comparison of the effect of two Chinese herbal medicines (Bofu-tsusho-san and Dai-saiko-to) on metabolic disorders in obstructive sleep apnea patients with sustained obesity and hypertension following CPAP treatment. The 17th Congress of the Asian Pacific Society Respiriology 2012, Hong Kong, China, 2012.12.16.
- 17) Chin K. Respiratory care (Oxygen, CPAP, NPPV and ASV) for SDB in Japan under the health insurance system. The 8th Annual Meeting of Korea Sleep Research Society Seoul, Korea, 2011.7.9.
- 18) Tanizawa K, Chin K. Effects of intermittent hypoxia on several parameters for cardiovascular risk factors. Industrial Symposium 4: Metabolic risk of sleep apnea. Worldsleee2011, Kyoto , Japan , 2011.10.18.
- 19) Chin K. Metabolic syndrome, Hypertension, Diabetes mellitus and Sleep apnea in Japan. Plenary Symposium 4: The Burden of Sleep-Disordered Breathing Across the Globe. Worldsleee2011, Kyoto , Japan , 2011.10.17.
- 20) Chin K. Effects of CPAP therapy on the several factors for morbidity in patients with OSA. Symposium 3. The 8th Annual Meeting of Korea Sleep Research Society Seoul , Seoul, South Korea, 2011.7.9.
- 21) Chin K, Chihara Y, Aritake K, Harada Y, Azuma M, Toyama Y, Murase K, Aihara K, Tanizawa K, Handa T, Yoshimura C, Hitomi T, Oga T, Mishima M, Hayaishi O, Urade Y. The relationship between endothelial function and lipocalin-type

- prostaglandin D synthase (L-PGDS) in obstructive sleep apnea. 16th Congress of the Asian Pacific Society of Respirology, Shanghai, China, 2011.11.4.
- 22) Toyama Y, Yoshimura C, Hitomi T, Oga T, Kadotani H, Takegami M, Nakayama-Ashida Y, Minami I, Horita S, Oka Y, Wakamura T, Fukuhara S, Mishima M, Chin K. Effects of sleep duration and obstructive sleep apnea on serum lipid profiles in working age males in Japan. Worldslepp2011, Kyoto, Japan, 2011.10.17.
- 23) Chihara Y, Aritake K, Harada Y, Azuma M, Toyama Y, Murase K, Aihara K, Tanizawa K, Handa T, Yoshimura C, Hitomi T, Oga T, Mishima M, Hayaishi O, Urade Y, Chin K. Lipocalin-type prostaglandin D synthase (L-PGDS) is associated with obstructive sleep apnea. Worldslepp2011, Kyoto, Japan, 2011.10.17.
- 24) Yoshimura C, Oga T, Kadotani H, Takegami M, Nakayama-Ashida Y, Minami I, Horita S, Oka Y, Wakamura T, Fukuhara S, Mishima M, Chin K. Relationship between reduced lung function and metabolic syndrome in an urban male working population in Japan. Worldslepp2011, Kyoto, Japan, 2011.10.16.
- 25) Harada Y, Oga T, Kadotani H, Takegami M, Takahashi K, Sumi K, Nakamura T, Nakayama-Ashida Y, Minami I, Horita S, Oka Y, Wakamura T, Fukuhara S, Mishima M, Chin K. Associations among obstructive sleep apnea, sleep duration determined by actigraph, and diabetes in urban male workers in Japan. American Thoracic Society International Conference, Denver, USA, 2011.5.18.
- 26) 陳和夫, 小賀徹, 人見健文, 吉村力: 睡眠時無呼吸の現状と関連病態 第28回日本医学会総会 2011年(震災の為にCD発表)
- 27) 陳和夫: 睡眠時無呼吸と循環器疾患 教育講演 第59回日本心臓病学会学術集会 神戸市 2011.9.23.
- 28) 陳和夫: 多くの診療場面で遭遇する睡眠呼吸障害・睡眠時無呼吸 日本内科学会北陸地方会 第54回生涯教育講演会 金沢市 2011.9.11.
- 29) 陳和夫: 睡眠時無呼吸症候群と生活習慣病 シンポジウム2: 呼吸器疾患と全身の関わり 第108回日本内科学会総会・講演会 横浜市 2011.11.13.
- 30) 相原顕作, 小賀徹, 陳和夫: 睡眠時無呼吸と肺障害 日本呼吸器学会合同シンポジウム: 呼吸器疾患と睡眠障害 第36回日本睡眠学会定期学術集会 京都市 2011.10.15.
- 31) 小賀徹: 閉塞性肺疾患の多面的評価 シンポジウム2: 閉塞性肺疾患の多面的評価 第51回日本呼吸器学会学術講演会

東京 2011.4.22.

- 32) Oga T, Harada Y, Kadotani H, Takegami M, Takahashi K, Sumi K, Nakamura T, Nakayama-Ashida Y, Minami S, Horita S, Oka Y, Wakamura T, Fukuhara S, Mishima M, Chin K. Relationship between sleepiness, sleep duration and sleep apnoea with or without hypertension in middle-aged male Japanese workers. European Respiratory Society Annual Congress. (2010,9.20, FIRA BARCELONA Gran Via venue, Spain)
- 33) Aihara K., Oga T, Chihara Y, Harada Y, Tanizawa K, Watanabe K, Handa T, Hitomi T, Tsuboi T, Mishima M, Chin K. Analysis of anatomical and functional determinants of obstructive sleep apnoea. European Respiratory Society Annual Congress.(2010,9.21,FIRA BARCELONA Gran Via venue, Spain)
- 34) Harada Y, Oga T, Kadotani H, Takegami M, Takahashi K, Sumi K, Nakamura T, Ashida Y, Minami I, Horita S, Oka Y, Wakamura T, Fukuhara S, Mishima M, Chin K. Analysis of the relationships between sleep-disordered breathing, hypertension sleepiness and sleep duration in middle-aged urban male workers in Japan. ATS International Conference. (2010,5.17, New Orleans, Louisiana, USA)
- 35) Chin K, Chihara Y, Oga T, Tsuboi T, Handa T, Yamamoto K, Mishima M, Uemoto S. Noninvasive ventilation failure predicts in-hospital mortality following living-donor liver transplantation. European Respiratory Society Annual Congress.(2010,9.19, FIRA BARCELONA Gran Via venue, Spain)
- 36) 谷澤公伸, 陳和夫, 星野勇馬, 小賀徹: 間欠的低酸素とSAS. 第50回日本呼吸器学会学術講演会 シンポジウム12 全身性疾患としての睡眠時無呼吸症候群 京都市 2010.4.25.
- 37) 陳和夫: 呼吸不全におけるNPPV管理 第50回日本呼吸器学会学術講演会 教育講演15 京都市 2010.4.25.
- 38) 陳和夫: 睡眠呼吸障害の頻度、病態生理および合併症 第55回日本透析医学会学術集会・総会 よくわかる透析科学2 透析患者の見過ごされやすい合併症1. 神戸市 2010.6.18.
- 39) 陳和夫: 睡眠呼吸障害と循環器疾患及びその関連病態 日本睡眠学会第35回定期学術集会ランチオンセミナー5 名古屋 2010.7.1.
- 40) 陳和夫: 睡眠呼吸障害 教育講演12. 第20回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 長崎市 2010.10.2.

櫻井滋

- 41) 西島嗣生：循環器疾患における睡眠時無呼吸症候群の位置づけ，花巻高血圧セミナー，花巻市，2012.3.14.
- 42) 櫻井滋，近藤哲理：睡眠呼吸障害 病態生理・治療（ポスター発表座長），第52回日本呼吸器学会学術講演会，神戸市，2012.4.21.
- 43) Mito F, Kizawa T, Hosokawa K, Takahashi S, Nishijima T, Suwabe A, Sakurai S : CURRENT SITUATION OF NASAL CONTINUOUS POSITIVE AIRWAY PRESSURE THERAPY AFTER THE EAST JAPAN MEGAQUAKE DISASTER 26th Annual Meeting of the Associated Professional Sleep Societies, LLC Boston, Massachusetts 2012.6.12.
- 44) 西島嗣生，細川敬輔，美藤文貴，木澤哲也，高橋進，遠藤文代，櫻井滋：心房性利尿ペプチド高値および不整脈を合併した睡眠時無呼吸症候群における血漿 adipokines 濃度の検討，第37回日本睡眠学会，横浜市，2012.6.28.
- 45) 櫻井滋，Winfried J. Randerath：Long-Term Therapy with Continuous Positive Airway Pressure in Obstructive Sleep Apnea：Adherence, Side Effects and Predictors of Withdrawal，第37回日本睡眠学会の学術集会，横浜市，2012.6.28.
- 46) 木澤哲也，美藤文貴，細川敬輔，三上山紗樹子，遠藤文代，西島嗣生，高橋進，

櫻井滋，佐藤嘉洋，中村元行：循環器科医による簡易検査結果をもとに、睡眠医療科紹介となった患者の最終診断分類について，第37回日本睡眠学会の学術集会，横浜市，2012.6.29

- 47) 櫻井滋：睡眠を「臨床化学」する～睡眠のバイオマーカーを追って～（教育講演），第52回日本臨床化学会年次学術集会，盛岡市，2012.9.6
- 48) 西島嗣生，細川敬輔，美藤文貴，木澤哲也，高橋進，遠藤文代，櫻井滋：心房性利尿ペプチド高値および不整脈を合併した睡眠時無呼吸症候群における血漿 adipokines 濃度の検討，第52回臨床化学会，盛岡市，2012.9.7
- 49) 細川敬輔，西島嗣生，美藤文貴，木澤哲也，高橋進，諏訪部章，櫻井滋：閉塞性睡眠時無呼吸症候群における血漿 vaspin 濃度の新たな意義、第52回日本臨床化学会，盛岡市，2012.9.7
- 50) 高橋進：いびきと眠りの公開講座 in 宮古，岩手県宮古市，2012.9.15.

赤柴恒人

- 51) 岡本直樹，関山晶子，神津悠，伊藝孔明，関山忠孝，熊沢文雄，須金紀雄，高橋典明，赤柴恒人，橋本修，片山久：活動性肺結核における喀痰培養陰性までの日数と入院日数に影響する諸因子の検討。第87回日本結核病学会総会，広島市，2012.3.
- 52) 伊藝孔明，岡本直樹，熊沢文雄，須金紀雄，高橋典明，赤柴恒人，橋本修：抗結核薬治療経過中に耐性を獲得した2

- 例. 第 87 回日本結核病学会総会, 広島市, 2012.3
- 53) 清藤晃司, 服部知洋, 永岡賢一, 岡本直樹, 吉澤孝之, 赤柴恒人, 橋本修: 簡易肺機能測定機器の禁煙不外来における有用性. 第 109 回日本内科学会講演会, 京都市, 2012.4.
- 54) 吉澤孝之, 古市祥子, 石黒俊彦, 吉澤明孝, 岩城基, 清藤晃司, 赤星俊樹, 赤柴恒人, 細川芳文, 橋本修: プライマリケアにおける COPD 早期発見と治療介入の試み - 一般外来と禁煙外来でのスクリーニング. 第 109 回日本内科学会講演会, 京都市, 2012.4.
- 55) 永岡賢一, 植松昭仁, 赤星俊樹, 神津悠, 伊藝孔明, 岡本直樹, 清藤晃司, 桂一仁, 吉澤孝之, 赤柴恒人, 橋本修: 簡易肺機能測定機器の禁煙不外来における有用性. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会, 神戸市, 2012.4.
- 56) 吉澤孝之, 古市祥子, 岩城基, 吉澤明孝, 赤柴恒人, 細川芳文, 橋本修: 慢性呼吸器疾患における終末期ケア - 肺がんと比較検討 -. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会, 神戸市, 2012.4.
- 57) 岩城基, 吉澤孝之, 古市祥子, 吉澤明孝, 赤柴恒人, 細川芳文, 橋本修: 呼吸リハビリテーションにおける CAT の有用性. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会, 神戸市, 2012.4.
- 58) Furihata R, Uchiyama M, Takahashi S, Konno C, Suzuki M, Osaki K, Konno M, Kaneita Y, Ohida T, Akahoshi T, Hashimoto S, Akashiba T: The Association between sleep problems and perceived health status: A Japanese nationwide general population survey. World sleep 2011. Kyoto, 2011.10.
- 59) Uematsu A, Akashiba T, Akahoshi T, Nagaoka K, Okamoto N, Ige K, Kohzu Y, Kiyofuji K, Katsura K, Yoshizawa T, Hashimoto S: Associations between OSA and Gastroesophageal Reflux Disease (GERD). World sleep 2011. Kyoto, 2011.10.
- 60) 永岡賢一, 吉澤孝之, 植松昭仁, 赤星俊樹, 神津悠, 吉澤明孝, 権寧博, 赤柴恒人, 橋本修: OSAS 患者における高血圧と喫煙の関連について. (ミニシンポジウム: 喫煙). 第 50 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2011.4.
- 61) 赤柴恒人: 睡眠時無呼吸症候群. 第 21 回気管食道科学会専門医大会, 大阪市, 2011.2.
- 62) 赤柴恒人: 慢性閉塞性肺疾患の病態と治療. 豊島区内科医会講演会, 東京, 2011.3.
- 63) 赤柴恒人: 睡眠時無呼吸症候群—眠っている時に呼吸が止まる (市民公開講座). 城北睡眠障害研究会, 東京, 2011.5
- 64) 赤柴恒人: 睡眠時無呼吸症候群と生活習慣病. 第 7 回関西 SDB 研究会. 大阪市, 2011.6.
- 65) 赤柴恒人: 睡眠呼吸障害の診断と治療の進歩. 第 53 回生涯教育講演会 (日本内科学会北陸地方会). 福井市, 2011.6.
- 66) 岡本直樹, 植松昭仁, 永岡賢一, 伊藝孔

- 明, 赤星俊樹, 赤柴恒人, 高橋典明, 橋本修: 長期 CPAP 症例におけるコンプライアンスと問題点の検討. 第 50 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2011.4.
- 67) 桑原徹, 廣安一彦, 赤柴恒人, 山口晃: 経口抗癌剤にて重度の Hand-Foot Syndrome を生じた 2 例. 第 35 回日本頭頸部癌学会, 愛知, 2011.6.
- 68) 瀬在明, 赤星俊樹, 秦光賢, 吉武勇, 宇野澤聡, 和久井真司, 木村玄, 畑博明, 塩野元美, 赤柴恒人, 高山忠輝, 平山篤志, 内山真, 関野久邦: 睡眠時無呼吸症候群と心血管リスク 心臓手術患者と睡眠呼吸障害. 第 59 回日本心臓病学会学術集会 6(S): 146, 2011.8.
- 69) 永岡賢一, 植松昭仁, 吉澤孝之, 赤星俊樹, 柴崎佳奈, 清藤晃司, 岡本直樹, 伊藝孔明, 神津悠, 吉澤明孝, 権寧博, 赤柴恒人, 橋本修: 閉塞型市民無呼吸症候群(OSAS)患者の血圧に及ぼす喫煙と nasal-CPAP の影響. 第 36 回睡眠学会定期学術集会, 京都市, 2011.10.
- 70) 降旗隆二, 今野千聖, 鈴木正泰, 大寄公一, 高橋栄, 内山真, 兼板佳孝, 大井田隆, 赤星俊樹, 赤柴恒人: 健康管に対する不眠の影響の検討. 第 107 回日本精神神経学会学術集会, 東京, 2011.10.
- 71) 岡本直樹, 植松昭仁, 永岡賢一, 伊藝孔明, 清藤晃司, 赤星俊樹, 桂一仁, 赤柴恒人, 橋本修: CPAP 庄栄におけるアドヒアランスとその要因の検討. 第 20 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 松本市, 2011.11.
- 72) 橋田洋史, 柴崎佳奈, 伊藤勇輝, 本間美香, 伊藤明芳, 堀口利矢子, 石黒俊彦, 吉澤孝之, 赤柴恒人, 橋本修: n-CPAP 療法のコンプライアンスに関する検討. 第 20 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 松本市, 2011.11.
- 73) 吉澤明孝, 吉澤孝之, 古市祥子, 岩城基, 行田泰明, 平井菜穂子, 細川芳文, 赤星俊樹, 赤柴恒人, 橋本修: 閉塞性睡眠時無呼吸症候群の周術期管理 - 頸椎後縦靭帯骨化症の 3 手術例 -. 第 20 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 松本市, 2011.11.
- 74) 植松昭仁, 赤星俊樹, 赤柴恒人: メタボリックシンドロームと睡眠時無呼吸症候群 (シンポジウム: 全身性疾患としての睡眠時無呼吸症候群). 日呼吸会誌 48(S): 27, 2010.
- 75) 岡本直樹, 清藤晃司, 赤星俊樹, 服部知洋, 植松昭仁, 永岡賢一, 伊藝孔明, 松本健, 吉澤孝之, 高橋典明, 赤柴恒人, 橋本修: 指摘量を考慮した安定期 COPD の短時間作用型 B2 刺激薬 (SABA) assist use の検討. 日呼吸会誌 48(S): 395, 2010.
- 76) 平沼久人, 服部知洋, 関山忠孝, 山口賢二, 伊藤玲子, 清藤晃司, 松本健, 赤星俊樹, 赤柴恒人, 橋本修: 慢性咳嗽で受診し咳喘息と診断されその後肺炎として加療された気管支結核の 1 症例. 日呼吸会誌 48(S): 234, 2010.
- 77) 永岡賢一, 赤星俊樹, 植松昭仁, 清藤晃司, 川原誠司, 岡本直樹, 伊藝公明, 神津悠, 服部知洋, 辻野一郎, 吉澤孝之, 橋本修, 赤柴恒人: 閉塞型睡眠時無呼吸

- 症候群(OSAS)における代謝機能異常と体脂肪分布の検討。日呼吸会誌 48(S): 126, 2010.
- 78) 須金紀雄, 馬場雅行, 山本直敬, 中嶋美緒, 宮本忠昭, 今井礼子, 鎌田正, 溝江純悦, 辻井博彦, 高橋典明, 赤柴恒人, 橋本修: 高齢者肺癌に対する治療戦略 高齢者I期非小細胞肺癌に対する炭素イオン線治療の効果。肺癌 49(5): 580, 2010.
- 79) 山口賢二, 服部知洋, 伊藤玲子, 平沼久人, 関山忠孝, 松本健, 橋本奈緒美, 植松昭仁, 清藤晃司, 赤星俊樹, 馬島徹, 赤柴恒人, 橋本修: 気管支喘息とアディポサイトカインの関連について。アレルギー 59(3-4): 390, 2010.
- 80) 赤星俊樹, 植松昭仁, 川原誠司, 桂一仁, 蜂須賀久喜, 内山真, 赤柴恒人, 橋本修: 糖代謝異常は OSAS の治療でどのように改善しうるか? (シンポジウム: SAS と糖尿病)。日本睡眠学会誌 S: 34, 2010.
- 81) 矢橋真奈美, 川原誠司, 石川典恵, 長田佳子, 芝宮ゆり, 古川沙央里, 清水健一郎, 野尻さと子, 植松昭仁, 赤星俊樹, 赤柴恒人: ポストポリオ症候群に合併した閉塞型睡眠時無呼吸症候群に nCPAP 治療が有効であった 1 例。日本睡眠学会誌 S: 207, 20107
- 82) 清藤晃司, 永岡賢一, 赤星俊樹, 岡本直樹, 植松昭仁, 服部知洋, 松本健, 吉澤孝之, 赤柴恒人, 橋本修: ハイ・チェッカーによる FEV1.0 および FEV1.0/FEV6.0 の有用性についての検討。日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 20(S): 231, 2010.
- 83) 植松昭仁, 吉沢孝之, 石黒俊彦, 吉澤明孝, 赤星俊樹, 権寧博, 赤柴恒人, 橋本修: 閉塞性睡眠時無呼吸症候群と喫煙 - 特に高血圧との関連について。日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 20(S): 302, 2010.
- 84) 橋田洋史, 石黒俊彦, 吉澤孝之, 吉澤明孝, 鈴木雅明, 古川恭司, 権寧博, 赤柴恒人, 波多江奈緒美: n-CPAP 療法における「Easy Life」マスクの有用性について。日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 20(S): 303, 2010.
- 85) 大城祐介, 吉澤孝之, 岩城基, 久野絵里, 佐々木正美, 平井菜穂子, 吉澤明孝, 赤柴恒人, 橋本修: バッテリー内蔵小型ベンチレーターtrilogy100 の有用性。日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 20(S): 205, 2010
- 86) 大城祐介, 岩城基, 吉澤孝之, 古市祥子, 吉澤明孝, 宮本園江, 榊原美沙, 成田理恵, 赤柴恒人, 橋本修: NPPV 導入が困難な慢性2型呼吸不全に対する Average Volume Assured Pressure Support の有用性。日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 20(S): 202, 2010.
- 87) 赤柴恒人: 眠時無呼吸症候群の病態と治療(ランチョンセミナー)。日本公衆衛生学会誌
- 88) 藤田之彦, 橋本修, 住友直方, 堀越昶, 赤柴恒人, 竹内仁, 戸田宗宏: 日本大学医学部と芸術学部演劇学科との学部間協力による模擬患者(SP)養成の試み。医

学教育 41(S): 99, 2010.

佐藤誠

89) M.Satoh: Effect of Nasal Airway Stent (NAS) on Obstructive Sleep Apnea. ATS2012 .San Francisco USA, 2012.5.

90) 佐藤誠: シンポジウム 2: 睡眠呼吸障害と上気道 ~ 睡眠中の上気道と呼吸調節における進歩: 閉塞性睡眠時無呼吸 (OSA) に対する新たな治療 Nasal Airway Stent (NAS) と collapsible tube model. 日本睡眠学会第 37 回定期学術集会, 横浜市, 2012.6.

91) 佐藤誠: シンポジウム 20: 2007 年 AASM による睡眠および随伴イベントの判定マニュアル導入について: 「臨床 PSG 判定基準ワークグループ報告」呼吸ルール. 日本睡眠学会第 37 回定期学術集会. 横浜市, 2012.6.

92) 緒形ひとみ, 矢島克彦, 萱場桃子, 瀬谷友美, 清野健, 徳山薫平, 佐藤誠: 周波数解析を用いた睡眠段階と睡眠時エネルギー消費量に関する基礎的検討. 日本睡眠学会第 37 回定期学術集会. 横浜市, 2012.6.

93) 萱場桃子, 岩山海渡, 緒形ひとみ, 瀬谷友美, 徳山薫平, 佐藤誠: 就寝前の短波長光曝露が睡眠と代謝に及ぼす影響. 日本睡眠学会第 37 回定期学術集会. 横浜市, 2012.6.

94) 矢島克彦, 瀬谷友美, 日比壮信, 中島雄, 播さや香, 清野健, 徳山薫平, 佐藤誠, 緒形ひとみ: 異なる栄養素組成の食事が睡眠の質とエネルギー代謝に与える影

響. 日本睡眠学会第 37 回定期学術集会. 横浜市, 2012.6.

95) 高野健太, 相原治幸, 伊藤瑠美, 北村英之, 成井浩司, 佐藤誠, 佐藤鮎美: 複数の科で診察を受けている CPAP 治療を実施している患者の受診率の比較. 日本睡眠学会第 37 回定期学術集会. 横浜市, 2012.6.

96) 相原治幸, 伊藤瑠美, 高野健太, 北村英之, 成井浩司, 佐藤誠, 佐藤鮎美: 当院における患者背景の違いによる ASV 治療継続への影響. 日本睡眠学会第 37 回定期学術集会. 横浜市, 2012.6.

97) 瀬谷友美, 菜花めぐみ, 腰野結希, 柳原万里子, 佐藤誠: 循環器疾患および糖尿病を対象にした Out of laboratory, technician Un-attended PSG の有用性に関する検討: 日本睡眠学会第 36 回定期学術集会. 京都市, 2011.10.

98) 腰野結希, 青沼和隆, 瀬尾由広, 石津智子, 柳原万里子, 佐藤誠: 睡眠時無呼吸症候群における無呼吸中の胸腔内圧低下が心機能に及ぼす影響について: 日本睡眠学会第 36 回定期学術集会. 京都市, 2011.10.

99) M.Satoh: A New Therapy for Obstructive Sleep Apnea. 日本睡眠学会第 36 回定期学術集会. 京都市, 2011.10.

100) M.Satoh: Effectiveness of a nasal airway stent on obstructive sleep apnea. Worldsleap2011. Kyoto, 2011.10.

101) 柳原万里子, 下山久美子, 中村有

- 希,高橋理,鈴木浩明,島野仁,佐藤誠:
他疾患における睡眠呼吸障害(SDB)ス
クリーニング検査から確定診断・治療開
始までの問題点. 日本睡眠学会第 35 回
定期学術集会. 名古屋市, 2010.7.
- 102) 相原治幸,北村英之,佐藤耐喜,
佐藤鮎美,笠木聡,成井浩二,佐藤誠:
当院における循環器疾患患者での睡眠
時無呼吸症候群スクリーニング検査の
有用性についての検討. 日本睡眠学会
第 35 回定期学術集会. 名古屋市,
2010.7.
- 103) 中村有希,前島良枝,下山久美子,
高橋理,柳原万里子,佐藤誠:筑波大学
生の睡眠習慣と食生活に関する研究.
日本睡眠学会第 35 回定期学術集会. 名
古屋市, 2010.7.
- 104) 佐藤誠: 育講演: 肥満と睡眠障害.
第 30 回日本肥満学会. 2010・10 前橋.
- 105) 佐藤誠: シンポジウム 1: 睡眠時
無呼吸症候群と口腔外科: 睡眠時無呼吸
症候群における医科と歯科の連携. 第
55 回日本口腔外科学会総会・学術大会.
千葉市, 2010.10.
- 井上雄一**
- 106) 井上雄一: 生活習慣病を視野に入
れた不眠治療ストラテジー 第 53 回日
本神経学会学術大会, 東京 2012.05.23.
- 107) 井上雄一: 睡眠障害の診断と治療
計画 第 108 回日本精神神経学会学術総
会, 札幌市, 2012.05.24.
- 108) 井上雄一: 日中の眠気と医療連携
第 85 回日本産業衛生学会, 名古屋市,
2012.05.31.
- 109) 高江洲義和,鍵村達夫,井上雄一,
飯森眞喜雄: パニック障害と閉塞性睡眠
時無呼吸症候群合併例における鼻腔持
続陽圧呼吸療法のパニック症状に対す
る効果 第 169 回東京医科大学医学会総
会, 東京, 2012.06.02.
- 110) 井上雄一: 不眠・睡眠不足と心不
全 第 48 回日本循環器病予防学会, 東京,
2012.06.15.
- 111) 井上雄一: レストレスレッグス症
候群の臨床 第 7 回城北睡眠障害研究会,
東京, 2012.06.15.
- 112) 井上雄一, 笹井妙子: レム睡眠行
動障害 第 27 回日本老年精神医学会, 大
宮市, 2012.06.21.
- 113) 井上雄一: 不眠治療のゴールは何
か? 日本睡眠学会第 37 回定期学術集
会, 横浜市, 2012.06.28-30
- 114) 井上雄一: 高齢期の睡眠時無呼吸
症候群の臨床的意義と対応 日本睡眠学
会第 37 回定期学術集会, 横浜市,
2012.06.28-30.
- 115) 中村真樹, 井上雄一: 過眠症の画
像研究 日本睡眠学会第 37 回定期学術
集会, 横浜市, 2012.06.28-30.
- 116) 古舘直典, 駒田陽子, 井上雄一:
小児 RLS 患者の臨床特性に関する検討
日本睡眠学会第 37 回定期学術集会, 横
浜市, 2012.06.28-30.
- 117) 井上雄一: 終末期腎障害と restless
legs syndrome 日本睡眠学会第 37 回定
期学術集会, 横浜市, 2012.06.28-30.
- 118) 西田慎吾, 中村真樹, 伊藤永喜,

- 植木洋一郎,菅野芽里,林田健一,井上雄一:メラトニン受容体アゴニスト ramelteon の睡眠相後退症候群(DSPS)における有効性と治療反応性規定要因に関する研究 日本睡眠学会第37回定期学術集会,横浜市,2012.06.28-30.
- 119) 井上雄一:閉塞性睡眠時無呼吸症候群の残遺眠気へのアプローチ 日本睡眠学会第37回定期学術集会,横浜市,2012.06.28-30.
- 120) 對木悟,志賀寿三,岡島義,井上雄一:避難所における Tongue Stabilizing Device を用いたいびき対策 日本睡眠学会第37回定期学術集会,横浜市,2012.06.28-30.
- 121) 井上雄一:高齢者不眠の予防と対策 日本睡眠学会第37回定期学術集会,横浜市,2012.06.28-30.
- 122) 井上雄一:Restless legs syndrome の治療ストラテジー 日本睡眠学会第37回定期学術集会,横浜市,2012.06.28-30.
- 123) 伊藤永喜,對木悟,滝瀬雄二,前田恵子,井上雄一:肥満を呈する閉塞性睡眠時無呼吸症候群患者における重症度と顎顔面形態の関連 日本睡眠学会第37回定期学術集会,横浜市,2012.06.28-30.
- 124) 福田竜弥,對木悟,前田恵子,磯野史朗,滝瀬雄二,小林美奈,鍵村達夫,井上雄一:歯科矯正治療における抜歯は閉塞型睡眠時無呼吸症候群を将来的に重症化させるか 日本睡眠学会第37回定期学術集会,横浜市,2012.06.28-30.
- 125) 林田健一,小林美奈,難波一義,植木洋一郎,樋上茂,井上雄一:閉塞性睡眠時無呼吸症候群における呼吸関連指標の自然経過に関する検討 日本睡眠学会第37回定期学術集会,横浜市,2012.06.28-30.
- 126) 野村哲志,井上雄一,中島健二:パーキンソン病における睡眠時無呼吸の特徴 日本睡眠学会第37回定期学術集会,横浜市,2012.06.28-30.
- 127) 志村哲祥,岡田(有竹)清夏,駒田陽子,井上雄一:睡眠薬多剤併用の特徴と背景要因の検討 日本睡眠学会第37回定期学術集会,横浜市,2012.06.28-30.
- 128) 浅岡章一,岡田(有竹)清夏,駒田陽子,井上雄一:二交替制勤務に従事する看護師における夜勤中の仮眠取得が睡眠問題およびQOL・抑うつ傾向に与える影響 日本睡眠学会第37回定期学術集会,横浜市,2012.06.28-30.
- 129) 中村真樹,望月芳子,浅岡章一,西田慎吾,伊藤永喜,高江洲義和,植木洋一郎,林田健一,井上雄一:重度閉塞性睡眠時無呼吸症候群の注意・意欲障害 日本睡眠学会第37回定期学術集会,横浜市,2012.06.28-30.
- 130) 臼井靖博,高田佳史,西畑庸介,加藤浩太,井上雄一,山科章:閉塞性睡眠時無呼吸を合併する心不全患者における混合性無呼吸の解釈 日本睡眠学会第37回定期学術集会,横浜市,2012.06.28-30.
- 131) 小林美奈,難波一義,西田慎吾,

- 伊藤永喜,中村真樹,對木悟,井上雄一: 日本人男性における睡眠時無呼吸患者の予測に有効な身体的所見は何か 日本睡眠学会第 37 回定期学術集会,横浜市, 2012.06.28-30.
- 132) 普天間国博,浅岡章一,駒田陽子,井上雄一: 交代制勤務に従事する看護師の睡眠薬使用状況と服用の影響 日本睡眠学会第 37 回定期学術集会,横浜市, 2012.06.28-30.
- 133) 中島俊,岡島義,井上雄一: 高橋清久薬剤性パラソムニアおよび睡眠相後退を伴う気分障害に対して認知行動療法が奏功した 1 例 日本睡眠学会第 37 回定期学術集会,横浜市, 2012.06.28-30.
- 134) 高江洲義和,駒田陽子,浅岡章一,井上雄一: 不眠症における睡眠薬治療の長期化に関連する要因の検討(2) 日本睡眠学会第 37 回定期学術集会,横浜市, 2012.06.28-30.
- 135) 野村哲志,井上雄一,中島健二: 神経変性疾患について 日本睡眠学会第 37 回定期学術集会,横浜市, 2012.06.28-30.
- 136) 弓野大,山城義広,田中春仁,小川晃弘,吉嶺裕之,津田徹,安藤真一,井上雄一: 睡眠呼吸障害と心血管系疾患を検討する多施設前向き研究(SCCS) 日本睡眠学会第 37 回定期学術集会,横浜市, 2012.06.28-30.
- 137) 尾崎章子,浅岡章一,井上雄一: 交替勤務に従事する看護師の睡眠と職務満足感との関連 日本睡眠学会第 37 回定期学術集会,横浜市, 2012.06.28-30.
- 138) Inoue Y: Sleep research networks 21st Congress of the European Sleep Research Society, Paris 2012.09.04.
- 139) Fukuda T, Tsuiki S, Kobayashi M, Maeda K, Sasai T, Kagimura T, Inoue Y: Treatment success is affected by responder criteria in oral appliance therapy for obstructive sleep apnoea 21st Congress of the European Sleep Research Society, Paris 2012.09.04.
- 140) Inoue Y, Komada Y, Furudate N: Clinical characteristics of restless legs syndrome in children 21st Congress of the European Sleep Research Society, Paris 2012.09.04.
- 141) Sasai T, Komada Y, Inoue Y: Association between mild cognitive impairment and electroencephalographic slowing in idiopathic rapid eye movement sleep behavior disorder 21st Congress of the European Sleep Research Society, Paris 2012.09.04.
- 142) Komada Y, Asaoka S, Sasai T, Inoue Y: The prevalence and associated factors with sleep-related eating disorder: results of internet survey for Japanese young adults 21st Congress of the European Sleep Research Society, Paris 2012.09.04.

- 143) 浅岡章一, 駒田陽子, 井上雄一: 就職に伴う睡眠習慣の変化が精神的健康に与える影響 日本心理学会第76回大会, 東京, 2012.09.11.
- 144) Inoue Y: Narcolepsy treatment; an update Asian narcolepsy forum 2012, Hong Kong 2012.10.19.
- 145) 井上雄一: 呼吸睡眠系 第65回日本自律神経学会総会, 東京, 2012.10.25.
- 146) Inoue Y: Measures of sleep tendency. Advisory board on excessive daytime sleepiness meeting agenda; Paris 2011.04.01.
- 147) 井上雄一: PDに伴う睡眠障害. 第52回日本神経学会学術大会; 名古屋市, 2011.05.18.
- 148) 浅岡章一, 阿部高志, 有竹清夏, 笹井妙子, 駒田陽子, 井上雄一: 夜間睡眠の質の低下がエラー反応後の認知的処理に与える影響. 第29回日本生理心理学会大会; 高知市, 2011.05.21.
- 149) 井上雄一: 老年期睡眠障害の理解と対応. 第53回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.06.16.
- 150) 井上雄一: 透析患者における restless legs症候群の対応. 第56回日本透析医学会学術集会, 横浜市, 2011.06.19.
- 151) 井上雄一: 生体リズムと不眠/抑うつとの関係をめぐって. 第59回山陰精神神経学会, 島根, 2011.07.09.
- 152) 中島俊: 構造方程式モデリングを用いたストレス誘発性の認知過覚醒に基づく不眠メカニズムの検討. 日本睡眠学会第36回定期学術集会, 京都市, 2011.10.15-16.
- 153) 岡島義: 慢性不眠症に対する認知行動療法の現状. 日本睡眠学会第36回定期学術集会, 京都市, 2011.10.15-16.
- 154) 井上雄一: 高齢者の睡眠障害—その評価と対応—. 日本睡眠学会第36回定期学術集会, 京都市, 2011.10.15-16.
- 155) 井上雄一: 不眠症状の臨床評価を治療ストラテジーにどう生かすか?. 日本睡眠学会第36回定期学術集会, 京都市, 2011.10.15-16.
- 156) 伊藤永喜: 閉塞性睡眠時無呼吸症候群患者のCPAP至適圧と顎顔面形態. 日本睡眠学会第36回定期学術集会, 京都市, 2011.10.15-16.
- 157) Okada-Aritake S: Current situation and future of sleep technologists in Japan. 日本睡眠学会第36回定期学術集会, 京都市, 2011.10.15-16.
- 158) Inoue Y: "A dandomaized, double-blind, placebo-controlled trial of rotigotine in patients with restless legs syndrome in Japan". 日本睡眠学会第36回定期学術集会, 京都市, 2011.10.15-16.
- 159) Uchiyama M, Inoue Y, Uchimura N, Kawahara R, Kurabayashi M, Kario K: Making Japanese consensus report on the management of insomnia in general practice. Worldslepp2011; Kyoto, 2011.10.16-20.

- 160) Tsuiki S : Anatomical balance of the upper airway in Japanese and caucasian patients with obstructive sleep apnea. Worldsleee2011; Kyoto, 2011.10.16-20.
- 161) Takaesu Y, Komada Y, Inoue Y : The relationship between circadian rhythm sleep disorder and melatonin secretion in angelman syndrome. Worldsleee2011; Kyoto, 2011.10.16-20.
- 162) Tagaya H, Uchiyama M, Suzuki H, Okada-Aritake S : Effects of triazolam were influenced by circadian timing of administration. Worldsleee2011; Kyoto, 2011.10.16-20.
- 163) Sasai T, Inoue Y : Personality trait is not related with the occurrence of rem sleep behavior disorder. Worldsleee2011; Kyoto, 2011.10.16-20.
- 164) Ozaki A, Inoue Y, Hayashida K, Nakajima T, Honda M, Usui A, Komada Y, Kobayashi M, Takahashi K : "Quality of life in patients with narcolepsy with cataplexy, narcolepsy without cataplexy, and idiopathic hypersomnia without long sleep time". Worldsleee2011; Kyoto, 2011.10.16-20.
- 165) Okajima I, Hayashida K, Nakamura M, Kanno M, Akira U, Nakajima S, Inoue Y : Effects of cognitive behavioral therapy on patients with pharmacological treatment-resistant insomnia. Worldsleee2011; Kyoto, 2011.10.16-20.
- 166) Okada-Aritake S, Namba K, Hidano N, Asaoka S, Komada Y, Usui A, Matsuura M, Inoue Y : Appearance of periodic limb movements during sleep on the night of continuous positive airway pressure in obstructive apnea syndrome. Worldsleee2011; Kyoto, 2011.10.16-20.
- 167) Nomura T, Inoue Y, Takagiwa H, Nakashima K : Comparison of polysomnographic findings and rem sleep behavior disorder between patients with progressive supranuclear palsy and those with parkinson disease. Worldsleee2011; Kyoto, 2011.10.16-20.
- 168) Nomura T, Inoue Y : Significance of rem sleep behavior disorders in synucleinopathies such as parkinson disease. Worldsleee2011; Kyoto, 2011.10.16-20.
- 169) Nakamura M, Nishida S, Ueki Y, Hayashida K, Inoue Y : The brain microstructural abnormalities in narcolepsy those cause daytime sleepiness and cataplexy. Worldsleee2011; Kyoto, 2011.10.16-20.

- 170) Moriwaki H, Murota A, Chiba S, Inoue Y : Acoustic rhinometry in osa patients. Worldsleee2011; Kyoto, 2011.10.16-20.
- 171) Maeda K, Tsuiki S, Nakata S, Okawara Y, Inoue Y : Are children easily predisposed to obstructive sleep apnea? Worldsleee2011; Kyoto, 2011.10.16-20.
- 172) Komada Y, Nomura T, Okajima I, Sasai T, Inoue Y : The course of insomnia and health-related quality of life over two years: a longitudinal study in the general population in Japan. Worldsleee2011; Kyoto, 2011.10.16-20.
- 173) Katayose Y, Kitamura S, Enomoto M, Aritake S, Nozaki K, Hida M, Moriguchi Y, Kamei Y, Mishima K : Residual sedative effects on next-day alertness and psychomotor performance of bedtime administered antihistamine-randomized controlled trial. Worldsleee2011; Kyoto, 2011.10.16-20.
- 174) Inoue Y, Komada Y : Accidents risk in sleep disorders. Worldsleee2011; Kyoto, 2011.10.16-20.
- 175) Inoue Y : Restless legs syndrome in endstage renal disease. Worldsleee2011; Kyoto, 2011.10.16-20.
- 176) Inoue Y : Spectrum concept of narcolepsy and its clinical significance. Worldsleee2011; Kyoto,2011.10.16-20.
- 177) Fukuda K, Asaoka S : Impact of obligatory daytime nap in Japanese nursery schools on children's nighttime sleep and morning moodiness. Worldsleee2011; Kyoto, 2011.10.16-20.
- 178) Asaoka S : Associated factors of positive shiftwork disorder in nurses working with rapid rotation schedule in Japan. Worldsleee2011; Kyoto, 2011.10.16-20.
- 179) Abe T, Nonomura T, Komada Y, Asaoka S, Sasai T, Ueno A, Inoue Y : Detecting deteriorated performance using percentage of eyelid closure time during Oxford sleep resistance tests. Worldsleee2011; Kyoto, 2011.10.16-20.
- 180) Inoue Y : An overview on the history of RBD research in Japan. The 5th international REM sleep behavior disorder (RBD) symposium; Shiga, 2011.10.20.
- 181) Takei Y, Komada Y, Namba K, Sasai T, Nakamura M, Sugiura T, Hayashida K, Inoue Y : Differences in findings of nocturnal polysomnography and multiple sleep latency test between narcolepsy and idiopathic hypersomnia. Worldsleee2011; Kyoto international

- conference center 2011.10.25.
- 182) 井上雄一：REM睡眠と自律神経系の関わり. 第64回日本自律神経学会総会, 秋田市, 2011.10.27.
- 183) 鍵村達夫, 井上雄一：閉鎖コホートによる2年間のRLS症状の自然経過調査. 第168回東京医科大学医学会総会, 東京, 2011.11.05.
- 184) 井上雄一：日中過眠と睡眠時無呼吸症候群. 第41回日本臨床神経生理学会, グランシップ, 静岡市, 2011.11.12.
- 185) 井上雄一：SAS. 第41回日本臨床神経生理学会学術大会, グランシップ, 静岡市, 2011.11.12.
- 186) 中島俊, 岡島義, 井上雄一：ストレス誘発性の過覚醒傾向と不眠症状に認知行動療法が及ぼす効果. 第27回日本ストレス学会学術総会, 東京, 2011.11.18.
- 187) 浅岡章一, 有竹(岡田)清夏, 駒田陽子, 井上雄一：二交代制勤務に従事する看護師における夜勤中の仮眠と睡眠問題との関連. 不眠研究会第27回研究発表会, 東京, 2011.12.03.
- 188) 岡田(有竹)清夏, 浅岡章一, 駒田陽子, 鍵村達夫, 井上雄一：インターネット調査を用いた不眠のQOL規定要因に関する検討. 不眠研究会第27回研究発表会, 東京, 2011.12.03.
- 189) 井上雄一：REM睡眠行動障害の最近の話題, 第3回九州睡眠研究会, 福岡市, 2012.02.25.
- 190)** 井上雄一：睡眠学会のSASスクリーニング・ガイドラインを視野に入れて
- 第82回日本衛生学会学術総会, 京都市, 2012.03.26.
- 191) 浅岡章一, 阿部高志, 福田一彦, 井上雄一：エラーモニタリング機能に与える覚醒時間延長の影響-行動指標およびP3との脆弱性の比較- 第28回日本生理心理学会大会, 茨城, 2010.05.15.
- 192) 高江洲義和, 井上雄一, 駒田陽子, 飯森眞喜雄：パニック障害と閉塞性睡眠時無呼吸症候群合併例における鼻腔持続陽圧呼吸療法のパニック症状に対する効果. 第106回日本精神神経学会学術総会, 広島市, 2010.05.20.
- 193) 井上雄一, 駒田陽子：睡眠関連食行動障害の臨床的意義と対応. 第106回日本精神神経学会学術総会, 広島市, 2010.05.20.
- 194) 井上雄一：睡眠薬の開発と臨床試験のあり方について現状の臨床試験の問題点と改善策. 日本睡眠学会第35回定期学術集会, 名古屋市, 2010.07.01.
- 195) 井上雄一：レム睡眠行動障害と周期性四肢運動. 日本睡眠学会第35回定期学術集会, 名古屋市, 2010.07.01.
- 196) 井上雄一：レストレスレッグス症候群の病態と治療-ドーパミン仮説を中心に-. 日本睡眠学会第35回定期学術集会, 名古屋市, 2010.07.01.
- 197) 小池茂文, 田中春仁, 山本勝徳, 井上雄一, 河合真：日本人透析患者のRLSにおけるドーパミンアゴニストの薬物血中動態. 日本睡眠学会第35回定期学術集会, 名古屋市, 2010.07.01.
- 198) 岡島義, 林田健一, 中村真樹, 渡邊

- 芽里, 碓氷章, 渋井佳代, 井上雄一 : 慢性不眠症患者に対する薬物療法と認知行動療法の効果—改善者と非改善者の特徴比較— 日本睡眠学会第 35 回定期学術集会, 名古屋市, 2010.07.01.
- 199) 浅岡章一, 阿部高志, 福田一彦, 井上雄一 : 眠気による認知的パフォーマンスの減衰-エラーモニタリングに着目して— 日本睡眠学会第 35 回定期学術集会, 名古屋市, 2010.07.01 .
- 200) 阿部高志, 浅岡章一, 駒田陽子, 野々村智英, 松橋亜矢, 笹井妙子, 碓氷章, 植野彰規, 井上雄一 : 行動的覚醒維持検査中の無反応に伴う眼球指標の特徴 日本睡眠学会第 35 回定期学術集会, 名古屋市, 2010.07.01.
- 201) 弓野大, 山城義広, 小林美奈, 井上雄一 : 睡眠呼吸障害と心血管系疾患を検討する他施設前向き研究: デザイン、目的、方法 日本睡眠学会第 35 回定期学術集会, 名古屋市, 2010.07.01 .
- 202) 臼井靖博, 高田佳史, 浅沼亮子, 庄司香津子, 小寺香澄, 猿原大和, 加藤浩太, 橋村雄城, 浅野毅弘, 椎名一紀, 井上雄一, 山科章 : 重症閉塞性睡眠時無呼吸における混合性無呼吸イベントは左室拡張能障害に関与する 日本睡眠学会第 35 回定期学術集会, 名古屋市, 2010.07.01.
- 203) 對木悟, 小林美奈, 井上雄一 : 閉塞型睡眠時無呼吸症候群患者の CPAP 適正圧から口腔内装置の治療効果を予測できるか 日本睡眠学会第 35 回定期学術集会, 名古屋市, 2010.07.01 .
- 204) 小林美奈, 難波一義, 對木悟, 井上雄一 : 高齢者閉塞性睡眠時無呼吸症候群の病態と臨床的特徴に関する検討 日本睡眠学会第 35 回定期学術集会, 名古屋市, 2010.07.01 .
- 205) 駒田陽子, 岡島義, 野村哲志, 井上雄一 : 慢性不眠が QOL に及ぼす影響 日本睡眠学会第 35 回定期学術集会, 名古屋市, 2010.07.01.
- 206) 鍵村達夫, 野村哲志, 楠見公義, 中島健二, 井上雄一 : 閉鎖コホートによる 2 年間の RLS 症状の自然経過調査 日本睡眠学会第 35 回定期学術集会, 名古屋市, 2010.07.01 .
- 207) 作田慶輔, 駒田陽子, 岡島義, 中村真樹, 井上雄一 : 周期性四肢運動障害における眠気規定因子及び周期性四肢運動指数の妥当性の検討 日本睡眠学会第 35 回定期学術集会, 名古屋市, 2010.07.01 .
- 208) 中村真樹, 作田慶輔, 林田健一, 井上雄一 : 特発性過眠症における大脳微細構造異常所見 日本睡眠学会第 35 回定期学術集会, 名古屋市, 2010.07.01 .
- 209) 伊東若子, 若井正一, 杉浦建生, 前田哲也, 服部優子, 安部俊一郎, 高野大樹, 近藤英明, 井上雄一, 神林崇, 清水徹男 : パーキンソン病と進行性核上麻痺において過眠症状へのオレキシン神経系の関与 日本睡眠学会第 35 回定期学術集会, 名古屋市, 2010.07.01.
- 210) 植木洋一郎, 林田健一, 中村真樹, 渡邊芽里, 小林美奈, 井上雄一 : ナルコレプシー患者の受診行動に関する実態

- 調査 日本睡眠学会第 35 回定期学術集会, 名古屋市, 2010.07.01 .
- 211) 肥田昌子, 渡邊真紀子, 加藤美穂, 北村真吾, 榎本みのり, 有竹清夏, 守口善也, 亀井雄一, 角谷寛, 内山真, 井上雄一, 海老澤尚, 高橋清久, 三島和夫 : ナルコレプシー患者の受診行動に関する実態調査 日本睡眠学会第 35 回定期学術集会, 名古屋市, 2010.07.01.
- 212) 野村哲志, 井上雄一, 植村佑介, 和田健二, 中島健二 : レビー小体型認知症とアルツハイマー型認知症のレム睡眠行動障害と睡眠ポリグラフの比較 日本睡眠学会第 35 回定期学術集会, 名古屋市, 2010.07.01.
- 213) 笹井妙子, 井上雄一 : レム睡眠行動障害に合併する周期性四肢運動障害の臨床的意義 日本睡眠学会第 35 回定期学術集会, 名古屋市, 2010.07.01.
- 214) 前田恵子, 對木悟, 井上雄一 : 小下顎と歯列弓狭窄を伴う小児閉塞性睡眠時無呼吸症候群の一例 日本睡眠学会第 35 回定期学術集会, 名古屋市, 2010.07.01.
- 215) Inoue Y, Namba K : Changes in cerebral haemoglobin indices in obstructive sleep apnoea syndrome with nasal continuous positive airway pressure treatment. 20th of Congress of the European Sleep Research Society, Lisbon 2010.09.16.
- 216) Inoue Y, Uchiyama N, Kuroda K, Hirata K, Hattori N : Open-label study of the long-term efficacy and safety of ASP8825 in patients with primary restless legs syndrome. 20th of Congress of the European Sleep Research Society, Lisbon 2010.09.16.
- 217) Sasai T, Inoue Y : The clinical significance of periodic leg movements in REM sleep behavior disorder. 20th of Congress of the European Sleep Research Society, Lisbon 2010.09.16.
- 218) Sakuta K, Komada Y, Okajima I, Nakamura M, Inoue Y : Associated factors for the occurrence of excessive daytime sleepiness in patients with periodic limb movements during sleep. 20th of Congress of the European Sleep Research Society, Lisbon 2010.09.16.
- 219) Yamauchi M, Fujita Y, Yoshikawa M, Kimura H : The Effects of Light vs. Dark Environment on Sleep Disordered Breathing in Healthy Subjects. American Thoracic Society International Conference, 2012.
- 220) Fujita Y, Yamauchi M, Yoshikawa M, Kimura H : Breathing Irregularity during Wakefulness Associates with Daytime Sleepiness in OSAS. American Thoracic Society International Conference, 2012.
- 221) 山本佳史, 吉川雅則, 藤田幸男, 友田恒一, 山内基雄, 児山紀子, 福岡篤彦, 木村弘 : 慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者における腰椎骨密度の関連因子.

- 第 109 回日本内科学会総会・講演会.2012.
- 222) 天野逸人, 田中晴之, 星野永, 田中志津, 長谷川淳, 森井武志, 木村弘: 固形腫瘍に対する同種免疫効果の臨床的検討. 第 109 回日本内科学会総会・講演会.2012.
- 223) 新田祐子, 小山友里, 吉川雅則, 山本佳史, 中村篤宏, 藤田幸男, 児山紀子, 山内基雄, 友田恒一, 三浦幸子, 吉川公彦, 木村弘: 肺気腫合併肺線維症 (CPFE)における呼吸機能の検討. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会.2012.
- 224) 小山友里, 新田祐子, 吉川雅則, 山本佳史, 中村篤宏, 藤田幸男, 児山紀子, 山内基雄, 友田恒一, 三浦幸子, 吉川公彦, 木村弘: 肺気腫合併肺線維症 (CPFE)の臨床的検討. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会.2012.
- 225) 熊本牧子, 児山紀子, 田中晴之, 友田恒一, 吉川雅則, 濱田薫, 神野正敏, 笠井孝彦, 野々村昭孝, 木村弘: IgG4 陽性の形質細胞による肺病変を認めた Multicentric Castleman 病の 2 例. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会.2012.
- 226) 松田昌之, 熊本牧子, 藤田幸男, 山本佳史, 本津茂人, 児山紀子, 山内基雄, 田中晴之, 須崎康恵, 友田恒一, 天野逸人, 森井武志, 吉川雅則, 木村弘: 経気管支生検にて診断した悪性リンパ腫の 3 症例. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会.2012.
- 227) 茨木敬博, 本津茂人, 山本佳史, 大田正秀, 中村篤宏, 太田浩世, 大屋貴広, 熊本牧子, 藤田幸男, 児山紀子, 山内基雄, 須崎康恵, 友田恒一, 吉川雅則, 濱田薫, 森田剛平, 笠井孝彦, 野々村昭孝, 木村弘: 器質化肺炎 (OP) 様の画像所見を呈し診断に苦慮した悪性胸膜中皮腫の一例. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会.2012.
- 228) 田村猛夏, 久下隆, 田村緑, 芳野詠子, 玉置伸二, 岡村英生, 徳山猛, 成田旦啓, 木村弘: 中皮腫症例とアスベスト検診について. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会.2012.
- 229) 山本佳史, 吉川雅則, 藤田幸男, 友田恒一, 山内基雄, 児山紀子, 福岡篤彦, 木村弘: 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 患者における骨密度の規定因子. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会.2012.
- 230) 本津茂人, 須崎康恵, 児山紀子, 大田正秀, 木村弘: 後期高齢者切除不能 3 期非小細胞肺癌に対する化学放射線療法、放射線単独療法の有効性、安全性の検討. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会.2012.
- 231) 児山紀子, 中村篤宏, 大屋貴広, 太田浩世, 大田正秀, 熊本牧子, 藤田幸男, 山本佳史, 本津茂人, 山内基雄, 須崎康恵, 友田恒一, 吉川雅則, 濱田薫, 木村弘: 肺血栓塞栓症合併原発性肺癌に対する IVC フィルター留置症例の検討. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会.2012.
- 232) 大屋貴広, 吉川雅則, 山本佳史, 友田恒一, 藤田幸男, 山内基雄, 児山紀子, 福岡篤彦, 木村弘: COPD アセス

- メントテスト (CAT) と Mini Nutritional Assessment(MNA)による栄養評価との関連. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会.2012.
- 233) 須崎康恵, 本津茂人, 児山紀子, 山本佳史, 大田正秀, 木村弘: 進行期肺癌化学療法 of 迅速な導入を目指した地域連携パス運用の試み. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会.2012.
- 234) 友田恒一, 大崎茂芳, 吉川雅則, 木村弘: ヒト肺における二次元方向での力学異方性. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会.2012.
- 235) 中村篤宏, 茨木敬博, 太田浩世, 伊藤武文, 山本佳史, 山内基雄, 友田恒一, 吉川雅則, 濱田薫, 木村弘: 肺高血圧症症例における右心カテーテルと心エコー所見の対比. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会.2012.
- 236) 太田浩世, 玉置伸二, 広中安佐子, 山内晶世, 土田澄代, 山内基雄, 吉川雅則, 高沢伸, 木村弘: 睡眠時無呼吸症候群に伴う間歇的低酸素曝露によるインスリン分泌障害. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会.2012.
- 237) 藤田幸男, 山内基雄, 中村篤宏, 太田浩世, 大屋貴広, 熊本牧子, 山本佳史, 本津茂人, 児山紀子, 須崎康恵, 友田恒一, 吉川雅則, 木村弘: CPAP アドヒアランス予測因子としての呼吸不規則性の可能性. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会.2012.
- 238) 山内基雄, 吉川雅則, 牧之段潔, 福岡篤彦, 藤田幸男, 児山紀子, 玉置伸二, 山本佳史, 友田恒一, 木村弘: 『肥満低換気症候群は稀少疾患として位置づけるべきか?』 - 肥満度と呼吸調節機構からみた OSAS との差異 - . 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会.2012.
- 239) 木村弘: 呼吸器疾患による肺高血圧症. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会.2012.
- 240) 駒瀬裕子, 國近尚美, 別役智子, 木村弘: 呼吸器診療に携わる女性医師支援策の提言. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会.2012.
- 241) Motoo Yamauchi, Hiroshi Kimura: OSA Phenotype and Breathing Irregularity. *Worldsleep* 2011.
- 242) Motoo Yamauchi, Masanori Yoshikawa, Yoshinobu Ohnishi, Hiroshi Nakano, Kingman P: Strohl, Hiroshi Kimura. CPAP acceptance and resting breathing irregularity during wakefulness in obstructive sleep apnea. *The 12th Sleep and Breathing International Conference in Barcelona, 2011.*
- 243) 木村弘, 吉川雅則: 日本呼吸器学会の立場から COPD ガイドラインの改定と今後の問題点. 第 21 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 2011.
- 244) 吉川雅則, 木村弘: COPD における栄養管理の実際. 第 21 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 2011.

- 245) 山内基雄, 藤田幸男, 吉川雅則, 大西徳信, 中野博, 木村弘: 閉塞性睡眠時無呼吸症候群における覚醒時安静呼吸の不規則性と CPAP アクセプタンス. 第 21 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 2011.
- 246) 山本佳史, 吉川雅則, 藤田幸男, 友田恒一, 山内基雄, 児山紀子, 玉置伸二, 木村弘: 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 患者における血中グレリンおよびアディポサイトカインと体重変化. 第 21 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 2011.
- 247) 藤田幸男, 吉川雅則, 山本佳史, 友田恒一, 山内基雄, 児山紀子, 玉置伸二, 木村弘: 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 患者における骨密度と骨代謝マーカー. 第 21 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 2011.
- 248) 山内基雄, 木村弘: OSAS の多様性と治療戦略. 第 36 回日本睡眠学会学術集会シンポジウム, 2011.
- 249) 吉川雅則, 中村篤宏, 濱田薫, 眞貝隆之, 高濱潤子, 三浦幸子, 玉置伸二, 友田恒一, 木村弘: 膠原病に合併した肺高血圧症における MDCT(multidetected-row CT)の検討. 第 23 回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2011.
- 250) 木村弘: 肺高血圧症の新分類, 診断と呼吸器疾患合併肺高血圧症. 第 51 回日本呼吸器学会学術講演会, 2011.
- 251) 児山紀子, 田崎正人, 早川正樹, 藤田幸男, 山本佳史, 本津茂人, 山内基雄, 須崎康恵, 玉置伸二, 友田恒一, 吉川雅則, 木村弘: IVC フィルターを挿入した肺血栓塞栓症合併原発性肺癌の臨床的検討. 第 51 回日本呼吸器学会学術講演会, 2011.
- 252) 鹿子木貴彦, 玉置伸二, 赤塚沙知子, 坂口和宏, 友田恒一, 吉川雅則, 木村弘: 多彩な内分泌異常症を伴い、全身化学療法を行った Langhans cell histiocytosis(LCH)の一例. 第 51 回日本呼吸器学会学術講演会, 2011.
- 253) 本津茂人, 須崎康恵, 児山紀子, 田崎正人, 大田正秀, 吉川雅則, 木村弘: 後期高齢者切除不能 3 期非小細胞肺癌に対する化学放射線療法および放射線単独療法の検討. 第 51 回日本呼吸器学会学術講演会, 2011.
- 254) 赤塚沙知子, 濱田薫, 児山紀子, 友田恒一, 吉川雅則, 笠井孝彦, 木村弘: リンパ脈管筋腫症における LAM 細胞組織と嚢胞形成に関する検討. 第 51 回日本呼吸器学会学術講演会, 2011.
- 255) 友田恒一, 大崎茂芳, 吉川雅則, 木村弘: ヒト肺における力学応力に関係したコラーゲン線維の配向性. 第 51 回日本呼吸器学会学術講演会, 2011.
- 256) 玉置伸二, 友田恒一, 藤田幸男, 山本佳史, 児山紀子, 山内基雄, 吉川雅則, 濱田薫, 木村弘: 当院における迅速発育菌群による肺非結核性抗酸菌症の検討. 第 51 回日本呼吸器学会学術講演会, 2011.
- 257) 田崎正人, 島田啓司, 須崎康恵, 本津茂人, 辻川和丈, 小西登, 木村弘:

- 非小細胞肺癌における PCA-1 発現の臨床的意義. 第 51 回日本呼吸器学会学術講演会, 2011.
- 258) 天野逸人, 田中晴之, 星野永, 田中志津, 長谷川淳, 早川正樹, 森井武志, 木村弘: 臍帯血は免疫抑制剤早期減量が可能な移植ソースである. 第 33 回日本造血細胞移植学会総会, 2011.
- 259) 長谷川淳, 田中志津, 星野永, 田中晴之, 天野逸人, 森井武志, 木村弘: G-CSF-priming-Ara-C+Busulfan(BU)+Fludarabine(FLU)による non-TBI レジメンで造血細胞移植を行った Myeloid Malignancy 13 例の検討. 第 33 回日本造血細胞移植学会総会, 2011.
- 260) 田中晴之, 天野逸人, 長谷川淳, 田中志津, 星野永, 森井武志, 木村弘: 中枢神経浸潤が疑われたリンパ系腫瘍に対し ACNU 大量療法を併用した同種造血幹細胞移植の検討. 第 33 回日本造血細胞移植学会総会, 2011.
- 261) Yamamoto Y, Yoshikawa M, Tomoda K, Yamauchi M, Fukuoka A, Tamaki S, Koyama N, Kimura H: Circulating ghrelin and adipocytokine levels in patients with chronic obstructive pulmonary disease. American Thoracic Society International Conference, 2010.
- 262) Yamauchi M, Tamaki S, Yoshikawa M, Ohnishi Y, Nakano H, Kimura H: CPAP acceptance and resting awake breathing irregularity in obstructive sleep apnea. American Thoracic Society International Conference 2010.
- 263) Tomoda K, Yoshikawa M, Kubo K, Yamamoto Y, Nakamura A, Yamauchi M, Hamada K, Kimura H: Discontinuous feeding with fiber-free diet accelerates elastase-induced emphysema in rats. American Thoracic Society International Conference, 2010.
- 264) Nakamura A, Hamada K, Sakai Y, Matsumoto K, Kimura H: Oral administration of a new prostacyclin agonist with a thromboxane synthase inhibitory activity improves bleomycin-induced lung fibrosis. European Respiratory Society Annual Congress, 2010.
- 265) Ota H, Tamaki S, Itaya-Hironaka A, Sakuramoto-Tsuchida S, Yamauchi A, Morioka T, Takasawa S, Kimura H: Direct effects of intermittent hypoxia on pancreatic beta cell function and proliferation. European Respiratory Society Annual Congress, 2010.
- 266) 木村弘, 山谷睦雄: 呼吸器科勤務医/専門医の現状 - 呼吸器診療医師の増加策をめざした取り組み. 日本呼吸器学会将来計画委員会特別報告, 第 50 回日本呼吸器学会学術講演会, 2010.
- 267) 太田浩世, 木村弘: β 細胞機能と SAS.(シンポジウム:全身性疾患としての睡眠時無呼吸症候群), 第 50 回日本

- 呼吸器学会学術講演会, 2010.
- 268) 中村篤宏, 桜井正樹, 真貝隆之, 三浦幸子, 高濱潤子, 今井照彦, 吉川雅則, 濱薫, 木村弘: MDCT (multidetected-row CT)による肺高血圧症例の検討. 第 50 回日本呼吸器学会学術講演会, 2010.
- 269) 須崎康恵, 濱田薫, 友田恒一, 吉川雅則, 木村弘: 肺気腫形成に抑制的な機能を有する T 細胞についての検討. 第 50 回日本呼吸器学会学術講演会, 2010.
- 270) 友田恒一, 吉川雅則, 久保薫, 山本佳史, 中村篤宏, 濱田薫, 木村弘: エラスターゼ誘導肺気腫は繊維除去食および欠食で促進する. 第 50 回日本呼吸器学会学術講演会, 2010.
- 271) 山本佳史, 吉川雅則, 山内基雄, 友田恒一, 福岡篤彦, 玉置伸二, 児山紀子, 三嶋理晃, 木村弘: 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の栄養状態および併存症の実態調査. 第 50 回日本呼吸器学会学術講演会, 2010.
- 272) 吉川雅則, 友田恒一, 山本佳史, 山内基雄, 児山紀子, 玉置伸二, 福岡篤彦, 木村弘: 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 患者における血中グレリンとアディポサイトカインの検討. 第 50 回日本呼吸器学会学術講演会, 2010.
- 273) 山内基雄, 玉置伸二, 友田恒一, 吉川雅則, 大西徳信, 中野博, 木村弘: 混合型睡眠時無呼吸は閉塞型睡眠時無呼吸として扱ってよいか? 第 50 回日本呼吸器学会学術講演会, 2010.
- 274) 玉置伸二, 友田恒一, 山本佳史, 児山紀子, 山内基雄, 吉川雅則, 濱田薫, 木村弘: 当院における肺非結核性抗酸菌症の検討. 第 50 回日本呼吸器学会学術講演会, 2010.
- 275) 田村猛夏, 田村緑, 久下隆, 岡村英生, 塚口勝彦, 畠山雅行, 徳山猛, 成田亘啓, 木村弘: アスベスト検診で発見された肺がん症例の検討. 第 50 回日本呼吸器学会学術講演会, 2010.
- 276) 太田浩世, 木村弘: 低酸素における臍臓 B 細胞障害.(シンポジウム:SAS と糖尿病). 日本睡眠学会第 35 回定期学術集会, 2010.
- 277) 大西徳信, 上森栄和, 中井正之, 千崎 香, 伊藤典子, 中野博, 木村弘: 睡眠時無呼吸症候群診断後の末端肥大症の合併発見例について. 日本睡眠学会第 35 回定期学術集会, 2010.
- 278) 山内基雄, 玉置伸二, 吉川雅則, 大西徳信, 中野博, 木村弘: CPAP acceptance 予測因子としての覚醒時呼吸不規則性の可能性. 日本睡眠学会第 35 回定期学術集会, 2010.
- 279) 藤田幸男, 吉川雅則, 山本佳史, 友田恒一, 福岡篤彦, 山内基雄, 児山紀子, 玉置伸二, 木村弘: 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 患者の骨塩量と QOL および運動能との関連. 第 20 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 2010.
- 280) 福岡篤彦, 鴨川浩二, 西林季美, 中森和里, 岩井一哲, 山本夏子, 甲斐吉郎, 国松幹和, 吉川雅則, 木村弘: 「笑い

ヨガ」の呼吸リハビリテーションへの応用のための基礎検討. 第 20 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 2010.

- 281) 鴨川浩二, 福岡篤彦, 中森和里, 西林季美, 岩井一哲, 山本夏子, 甲斐吉郎, 国松幹和, 吉川雅則, 木村弘:「笑いヨガ」の COPD 患者の QOL、うつおよび不安状態に及ぼす影響の臨床的検討. 第 20 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 2010.

榊原博樹

- 282) 三重野ゆうき, 林正道, 榊原博樹, 他:睡眠時無呼吸症候群の終夜ポリグラフでの性差に関する検討. 第 52 回日本呼吸器学会学術講演会, 神戸市, 2012.4.21.
- 283) 三重野ゆうき, 林正道, 榊原博樹, 他:在宅持続陽圧呼吸療法が有効であったチェーンストークス呼吸症候群の 3 例. 第 101 回ニコン呼吸器学会当会地方学会, 名古屋市, 2012.6.24.
- 284) 榊原博樹, 佐々木文彦:睡眠呼吸障害の診療における簡易モニターの役割. 日本睡眠学会第 36 回定期学術集会, 京都市, 2011.10.15 (シンポジウム).
- 285) 三重野ゆうき, 榊原博樹, 林正道, 佐々木文彦, 他:睡眠時無呼吸症候群 (SAS) の性差に関する検討. 日本睡眠学会第 36 回定期学術集会, 京都市, 2011.10.15.
- 286) 佐々木文彦, 榊原博樹, 齊藤八千代, 他:睡眠呼吸障害患者における自覚

的眠気尺度の特徴. 日本睡眠学会第 36 回定期学術集会, 京都市, 2011.10.15.

- 287) 榊原博樹:睡眠時無呼吸症候群を中心とした賢い医療連携. 日本呼吸器学会誌 48(増): 37, 2010. (第 50 回日本呼吸器学会学術講演会総会, 京都市, 2010)

宮崎総一郎

- 288) 北村拓朗, 宮崎総一郎:「睡眠呼吸障害患者における頭位による気道径の変化」第 25 回日本口腔・咽頭科学会総会学術講演会, 熊本市, 2012.6.
- 289) Miyazaki S: Role and impact of Nose on Sleep Disorder Breathing. Royal College of Otolaryngologists-Head and Neck Surgeons of Thailand, Thailand, 2012.4.24-26
- 290) Miyazaki S: Sleep Hygiene in OSA. Advanced Surgical Techniques for Obstructive Sleep Apnea A Hands-On Cadaver Workshop, Saint Louis, 2012.4.26-28
- 291) Miyazaki S: Usefulness of intraesophageal and upper airway pressure monitoring. Instructional Courses, X World Congress on Sleep Apnea, Roma, 2012.8.27-9.1
- 292) Miyazaki S: Nose and Sleep. Lunch with the Professor, X World Congress on Sleep Apnea, Roma, 2012.8.27-9.1
- 293) Miyazaki S: Better

understanding of OSAS in view point of Sleep Medicine. Scientific Program, X World Congress on Sleep Apnea, Roma, 2012.8.27-9.1

赤水尚史

- 294) 舩橋友美, 竹島健, 若崎久生, 西理宏, 玉川えり, 山岡博之, 宮本和佳, 古川安志, 稲葉秀文, 佐々木秀行, 赤水尚史: チアマゾール使用中にぶどう膜炎を来した HTLV-1 陽性 Basedow 病の一例. 第 55 回日本甲状腺学会学術集会 福岡市 2012.11.29. 12.1.
- 295) 竹島健, 原田沙耶, 舩橋友美, 玉川えり, 山岡博之, 宮本和佳, 古川安志, 稲葉秀文, 若崎久生, 西理宏, 赤水尚史: バセドウ病治療経過中に褐色細胞腫クリーゼを来した 1 例. 第 55 回日本甲状腺学会学術集会, 福岡市, 2012.11.29. 12.1.
- 296) 稲葉秀文, 竹島健, 古川安志, 舩橋友美, 玉川えり, 山岡博之, 宮本和佳, 太田敬之, 若崎久生, 西理宏, 赤水尚史: 妊娠に伴う甲状腺中毒症に関する検討. 第 55 回日本甲状腺学会学術集会, 福岡市, 2012.11.29. 12.1.
- 297) 宮本和佳, 舩橋友美, 玉川えり, 竹島健, 早川隆洋, 山岡博之, 古川安志, 稲葉秀文, 西理宏, 佐々木秀行, 赤水尚史: 橋本病と木村病に外眼筋腫大と眼瞼腫脹を合併し高 IgG4 血症を呈した一例. 第 55 回日本甲状腺学会学術集会 福岡市, 2012.11.29. 12.1.
- 298) 古川安志, 松野正平, 玉川えり, 竹島健, 宮本和佳, 稲葉秀文, 若崎久生, 古田浩人, 西理宏, 佐々木秀行, 赤水尚史: 甲状腺眼症の合併が疑われた多中心性キャスルマン病の一例. 第 55 回日本甲状腺学会学術集会, 福岡市, 2012.11.29. 12.1.
- 299) 赤水尚史: シンポジウム 2 パセドウ病外科治療の変遷「特別発言」. 第 45 回日本甲状腺外科学会学術集会, 横浜市, 2012.10.4 5.
- 300) 石橋達也, 稲葉秀文, 田中宏典, 古川安志, 太田敬之, 若崎久生, 古田浩人, 西理宏, 佐々木秀行, 赤水尚史: 多発性嚢胞腎の経過中に DIHS を来し, 続いて 1 型糖尿病と橋本病を発症した一例. 第 85 回日本内分泌学会学術総会, 名古屋市, 2012.4.19 21.
- 301) Takashi Akamizu, Tetsurou Satoh, Osamu Isozaki, Atsushi Suzuki, Shu Wakino, Tadao Iburi, Kumiko Tsuboi, Tsuyoshi Monden, Tsuyoshi Kouki, Naotetsu Kanamoto, Hajime Otani, Satoshi Teramukai, Masatomo Mori : Novel Diagnostic Criteria and Clinico-Epidemiological Features of Thyroid Storm Based on a Japanese Nationwide Survey. Takashi Akamizu, Tetsurou Satoh, Osamu Isozaki, Atsushi Suzuki, Shu Wakino, Tadao Iburi, Kumiko Tsuboi, Tsuyoshi Monden, Tsuyoshi Kouki, Naotetsu Kanamoto, Hajime Otani, Satoshi Teramukai, Masatomo Mori : Novel Diagnostic Criteria and

- Clinico-Epidemiological Features of Thyroid Storm Based on a Japanese Nationwide Survey . ENDO 2012: The 94th Annual Meeting & Expo Houston , USA June 23-26, 2012
- 302) T. Akamizu, N. Sakura, Y. Shigematsu, G. Tajima, A. Ohtake, H. Hosoda, H. Iwakura, H. Ariyasu, K. Kangawa : Plasma ghrelin levels appeared to be elevated in patients with medium-chain acyl-CoA dehydrogenase deficiency and glutaric aciduria type II: Evidence for that acyl-CoA is the substrate for ghrelin acylation . 15th International & 14th European Congress of Endocrinology (ICE/ECE 2012) Florence, Italy May 5-9, 2012
- 303) 有安宏之, 岩倉 浩, 寒川賢治, 中尾一和, 赤水尚史: 全身性強皮症患者における消化管障害に対するグレリンの臨床効果に関するクロスオーバー試験 . 第 85 回日本内分泌学会学術総会, 名古屋市, 2012.4.19 21.
- 304) 稲葉秀文, 赤水尚史, Leslie J De Groot : シンポジウム 2 自己免疫機序と内分泌代謝疾患「バセドウ病の免疫学的成因解析と新規治療法開発」. 第 85 回日本内分泌学会学術総会, 名古屋市, 2012.4.19 21.
- 305) 有安宏之, 岩倉浩, 村山敏典, 湯川尚一郎, 吉村健一, 横出正之, 三森経世, 中尾一和, 寒川賢治, 赤水尚史: 全身性強皮症患者における消化管障害に
- 対するグレリンの臨床効果に関するクロスオーバー試験 . 第 109 回日本内科学会講演会, 京都市, 2012.4.13 15.
- 306) 赤水尚史: The Year 2 「甲状腺」. 第 21 回臨床内分泌代謝 Update, 浜松市, 2012.1.27 28.
- 307) 高木伴幸, 形部裕昭, 中谷宗幹, 古川安志, 太田敬之, 石橋達也, 松野正平, 稲葉秀文, 中川貴之, 若崎久生, 古田浩人, 西理宏, 中尾大成, 佐々木秀行, 赤水尚史: 偽性副甲状腺機能低下症に洞不全症候群を合併した 1 例 . 第 21 回臨床内分泌代謝 Update, 浜松市, 2012.1.27 28.
- 308) 松野正平, 原田沙耶, 井畑淳子, 太田敬之, 高木伴幸, 若崎久生, 古田浩人, 西理宏, 佐々木秀行, 赤水尚史: 妊娠中に発見された糖尿病から診断に至った Cushing 症候群の 1 例 . 第 21 回臨床内分泌代謝 Update, 浜松市, 2012.1.27 28.
- 309) 鈴木敦詞, 佐藤哲郎, 磯崎収, 脇野修, 飯降直男, 坪井久美子, 門傳剛, 幸喜毅, 金本巨哲, 大谷肇, 手良向聡, 赤水尚史: 臨床重要課題 「粘液水腫昏睡・甲状腺クリーゼ」 3 . 甲状腺クリーゼ診断基準 (第一版) 改訂と治療指針作成に向けての検証 - 全国疫学調査の結果を踏まえて - . 第 54 回日本甲状腺学会学術集会, 大阪市, 2011.11.21 23.
- 310) 稲葉秀文, Leonard Moise、William Martin、Anne De Groot、駒津光久、赤水尚史: TSH レセプター (TSH-R) 蛋白/ペプチドにより免疫さ

- れた HLA-DR3 トランスジェニックマウスにおけるエピトープ認識と T 細胞受容体結合モチーフ . 第 54 回日本甲状腺学会学術集会 , 大阪市 , 2011.11.21 23.
- 311) 渡邊幹夫 , 井上直哉 , 森田麻美 , 巽圭太 , 日高洋 , 赤水尚史 , 岩谷良則 : IL5, IL6, IL13 遺伝子プロモータ領域の一塩基多型を用いた自己免疫性甲状腺疾患の病態予後予測 . 第 54 回日本甲状腺学会学術集会 , 大阪市 , 2011.11.21 23.
- 312) 玉川えり , 田中宏典 , 太田敬之 , 宮本和佳 , 山岡博之 , 村田有子 , 若崎久生 , 古田浩人 , 西理宏 , 佐々木秀行 , 赤水尚史 : 精神症状を呈し抗 NAE 抗体陽性で橋本脳症が疑われた粘液水腫の 1 例 . 第 54 回日本甲状腺学会学術集会 , 大阪市 , 2011.11.21 23.
- 313) 有安宏之 , 岩倉浩 , 勝浦五郎 , 後藤伸子 , 越智ゆかり , 山下唯 , 赤水尚史 , 寒川賢治 , 中尾一和 : グレリン分泌低下マウスの絶食・再摂食およびストレス状況下における摂食調節についての検討 . 第 54 回日本甲状腺学会学術集会 , 大阪市 , 2011.11.21 23.
- 314) Hidefumi Inaba, Leonard Moise, William Martin, Anne Searls De Groot, George Buchman, Takashi Akamizu, Leslie J. De Groot : Epitope recognition in HLA-DR3 transgenic mice immunized to TSH-R protein or peptides . 81st Annual Meeting of the ATA Indian Wells, USA October 26-30, 2011
- 315) 渡邊幹夫 , 井上直哉 , 森田麻美 , 巽圭太 , 日高洋 , 赤水尚史 , 岩谷良則 : IL-5、IL-6、IL-13 遺伝子プロモータ領域の多型と自己免疫性甲状腺疾患の病態予後との関連 . 遺伝医学合同学術集会 2011 , 京都市 , 2011.6.16 19.
- 316) T Akamizu, K Kangawa : Ghrelin:Physiological Significance & Therapeutic Potential . ENDO 2011:The Endocrine Society ' s 93rd Annual Meeting and Expo Boston, USA June 4-7, 2011
- 317) H Iwakura, H Ariyasu, H Hosoda, K Hosoda, K Nakao, K Kangawa, T Akamizu : Effects of Peptide Hormones and Neurotransmitters on In Vitro Ghrelin Secretion by Ghrelin-Producing Cell Line, MGN3-1 . ENDO 2011:The Endocrine Society ' s 93rd Annual Meeting and Expo Boston, USA June 4-7, 2011
- 318) 赤水尚史 , 寒川賢治 : ミニシンポジウム 6 悪液質の研究と臨床の展開 「カヘキシアに対するグレリンの臨床応用」.第 84 回日本内分泌学会学術総会 , 神戸市 , 2011.4.21 23.
- 319) 赤水尚史 : クリニカルアワー 3 厚生労働省 ホルモン受容機構異常に関する調査研究班報告「甲状腺クリーゼに関する全国疫学調査」.第 84 回日本内分泌学会学術総会 , 神戸市 , 2011.4.21 23.

- 320) 赤水尚史，有安宏行，岩倉浩，寒川賢治：クリニカルアワー7 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 中枢性摂食異常症班報告「神経性食欲不振症における新規治療薬としてのグレリン」。第84回日本内分泌学会学術総会，神戸市，2011.4.21 23.
- 321) 山岡博之，西理宏，若崎久生，下村裕子，中野好夫，古田浩人，佐々木秀行，南條輝志男，赤水尚史：粘液水腫昏睡の経過中に副腎皮質機能低下症が顕在化した1例。第84回日本内分泌学会学術総会，神戸市，2011.4.21 23.
- 322) 大星隆司，廣峰義久，山内孝哲，岸谷譲，小河健一，赤水尚史，南條輝志男：内臓脂肪蓄積を認める糖尿病患者の臨床像。第84回日本内分泌学会学術総会，神戸市，2011.4.21 23.
- 323) 有安宏行，岩倉浩，赤水尚史，山田豪，寒川賢治，中尾一和：後天的グレリン分泌低下マウスを用いたグレリン生理的役割の検討。第84回日本内分泌学会学術総会，神戸市，2011.4.21 23.
- 324) 吉松卓，松野正平，石橋達也，中野好夫，若崎久生，古田浩人，西理宏，佐々木秀行，南條輝志男，赤水尚史：自己免疫性下垂体炎の3例。第84回日本内分泌学会学術総会，神戸市，2011.4.21 23.
- 325) 岩倉浩，有安宏行，細田洋司，細田公則，中尾一和，寒川賢治，赤水尚史：新規グレリン分泌細胞株 MGN3-1 を用いたグレリン分泌調節の検討。第84回日本内分泌学会学術総会，神戸市，2011.4.21 23.
- 326) 赤水尚史：臨床内分泌入門 6「甲状腺クリーゼの診断と治療」。第20回臨床内分泌代謝 Update，札幌市，2011.1.29.
- 327) 高木伴幸，中山宜昭，坂頭節哉，下村裕子，中野好夫，若崎久生，古田浩人，西理宏，佐々木秀行，南條輝志男，赤水尚史：急速に呼吸不全の進行したSIADH 合併筋萎縮性側索硬化症の一例。第20回臨床内分泌代謝 Update，札幌市，2011.1.29.
- 328) T Akamizu：Diagnosis and epidemiology thyroid crisis . 14th Asia-Oceania Congress of Endocrinology Kuala Lumpur, Malaysia December 2-5, 2010
- 329) T Akamizu：Subclinical hyper/hypothyroidism . 14th Asia-Oceania Congress of Endocrinology Kuala Lumpur, Malaysia December 2-5, 2010
- 330) 磯崎収，佐藤哲郎，鈴木敦詞，脇野修，飯降直男，坪井久美子，門傳剛，幸喜毅，大谷肇，手良向聡，赤水尚史：「甲状腺クリーゼ」1．全国疫学調査と診断基準（第一版）の検証。第53回日本甲状腺学会，長崎市，2010.11.11-13.
- 331) 有安宏之，岩倉浩，赤水尚史，山田豪，中尾一和，寒川賢治：後天的グレリン分泌低下マウスにおける成長ホルモン分泌の検討。第37回日本神経内分泌学会学術集会，京都市，2010.10.22 23.

332) Akamizu T : Pathophysiology and Pathogenesis of Graves ' disease . 14th International Thyroid Congress Paris, France September 11-16, 2010.

333) Akamizu T: Ethnic differences in the Genetics of AITD . 14th International Thyroid Congress Paris, France September 11-16, 2010.

別所和久

334) 磯部悠, 家森正志, 喜早ほのか, 田村佳代, 高橋克, 別所和久: 顎変形症患者におけるセファロメトリーによる形態学的評価と中枢気道抵抗の関係についての横断的研究, 第 22 回日本顎変形症学会総会, 福岡市, 2012.6.18-19.

335) 喜早ほのか, 家森正志, 小林友里恵, 磯部悠, 田村佳代, 高橋克, 別所和久: 顎変形症患者における術前の顎顔面形態と中枢気道抵抗に関する検討, 第 43 回 日本口腔外科学会近畿地方会, 大阪市, 2012.6.23.

336) 家森正志, 磯部悠, 喜早ほのか, 田村佳代, 高橋克, 別所和久: Ricketts 法による形態学的評価と中枢気道抵抗の関係について ~ 顎変形症患者における横断的研究 ~ , 日本睡眠学会定期学術集会, 横浜市, 2012.6.28.

337) 家森正志, 三島清香, 喜早ほのか, 田村佳代, 高橋克, 小賀徹, 外山善朗, 東正徳, 原田有香, 陳和夫, 別所和久: 顎変形症患者における咽頭気道形態と

中枢気道抵抗に関する検討 CT と中枢気道抵抗によるパイロット研究 , OHOK Study , 平成 24 年度総会, 京都市, 2012.12.7.

338) 田村佳代, 家森正志, 磯部悠, 喜早ほのか, 高橋克, 別所和久: 顎矯正手術前後のセファロメトリーによる口腔咽頭腔の形態学的評価と上気道抵抗測定による機能的評価, 第 21 回日本顎変形症学会総会, 東京, 2011.6.15-17.

339) 家森正志, 高橋克, 小林友里恵, 磯部悠, 喜早ほのか, 田村佳代, 外山善朗, 村瀬公彦, 小賀徹, 相原顕作, 茆原雄一, 原田有香, 人見健文, 陳和夫, 別所和久: 顎変形症患者におけるセファロメトリーによる形態学的評価と中枢気道抵抗との関係についての横断的研究, OHOK Study , 平成 23 年度総会, 京都市, 2011.12.10.

340) 吉田信介, 家森正志, 田村佳代, 喜早ほのか, 高橋克, 別所和久: 顎変形症患者における顎骨移動手術に伴うセファロメトリーによる口腔咽頭腔の形態学的評価と閉塞性睡眠時無呼吸障害に関する研究 - 第 1 報 気道抵抗の計測 - 第 160 回京都歯科口腔外科集談会, 京都市, 2010.12.19.

吉田和也

341) Yoshida K : Glycated hemoglobin improvement by oral appliance therapy in obstructive sleep apnea syndrome patients with diabetes mellitus. 10th World

Conference on Sleep Apnea. Roma, 2011.10.16-20.
2012.8.27-9.1.

342) Yoshida K : Functional brain imaging in response to oral and cognitive tasks assessed by near-infrared spectroscopy in obstructive sleep apnea syndrome. 10th World Conference on Sleep Apnea. Roma, 2012, 8.27-9.1.

343) 吉田和也, 福原紫津子, 小川卓二, 大野純, 兵行忠 : 睡眠時無呼吸症候群の口腔内装置治療が高血圧と HbA1c に及ぼす影響 第 57 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 横浜市, 2012. 10. 19 - 21.

344) Yoshida K : Brain functions in response to oral and cognitive tasks assessed by near-infrared spectroscopy in obstructive sleep apnea syndrome. Worldslepp2011 (The 6th World Congress of the World Sleep Federation) and the 36th Annual Meeting of Japanese Society of Sleep Research. Kyoto, 2011, 10, 16-20.

345) Yoshida K : Glycated hemoglobin improvement by oral appliance therapy in obstructive sleep apnea syndrome patients with diabetes mellitus. Worldslepp2011 (The 6th World Congress of the World Sleep Federation) and the 36th Annual Meeting of Japanese Society of Sleep Research. Kyoto,

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

特になし

3. その他

特になし